

第2章 県民意識の調査

1. 調査目的

県民の緑に対する意識を把握するため、アンケート調査を実施した。

2. 調査手法

(1) 調査方法

Web上で調査票に回答するWebアンケート形式

(2) 調査対象

埼玉県内に居住する20歳以上を調査対象とし、株式会社クロス・マーケティング（民間のリサーチ・市場調査会社）が保有、配信可能なモニターから調査対象に合致する者を抽出した。

回収数は、2015（平成27）年度国勢調査に基づく各地域の20歳以上の人口を母集団とし、各地域の人口構成比率に準じるとともに、許容標本誤差10%、信頼水準95%を満たすように設定した。回答者の10歳区切りの年代構成及び男女の性別は、それぞれほぼ同数となるように調査対象を抽出した。

表2-1 10地域区分の構成市町村及び20歳以上人口

地域	構成市町村	20歳以上総数*	人口構成比	回収数
南部	川口市、蕨市、戸田市	638,184	10.7%	430
南西部	朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町	575,435	9.7%	387
東部	春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町	928,581	15.6%	625
さいたま	さいたま市	1,020,480	17.2%	687
県央	鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町	434,097	7.3%	292
川越比企	川越市、東松山市、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、東秩父村	660,648	11.1%	445
西部	所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高市	640,776	10.8%	431
利根	行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町	539,589	9.1%	363
北部	熊谷市、本庄市、深谷市、美里町、神川町、上里町、寄居町	420,576	7.1%	283
秩父	秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町、小鹿野町	84,768	1.4%	96
合計		5,943,134	100.0%	4,039

*2015（平成27）年度国勢調査（総務省統計局）に基づく

(3) 調査期間

2019(令和元)年9月5日(木)～9月17日(火)

(4) 調査項目

本調査の調査項目及び質問内容を下表に示す。

表 2-2 調査項目及び質問内容

1) 生活している地域(家の周り、職場や学校の周り)の緑について	
①家の周りの緑について	
地域への愛着	あなたは、お住まいのエリア(目安として家の周り徒歩10分程度の範囲)に愛着を感じていますか。
緑の満足度	あなたの家の周りは、緑に恵まれていると感じますか。 「恵まれている」、「やや恵まれている」と回答した方に伺います。なぜ、そう感じますか。[理由を選択肢から回答]
	「あまり恵まれていない」、「恵まれていない」と回答した方に伺います。なぜ、そう感じますか。[理由を選択肢から回答]
緑に対する心地よさの認識	あなたは、以下の緑について、その場を通りかかったり滞在したりしたときに、心地よいと感じますか。[緑の種類を選択肢から回答]
緑に対する重要性の認識	あなたは、以下の緑について、保全したり創出することが、あなたの家の周りにとって重要と思いますか。[緑の種類を選択肢から回答]
②職場や学校の周りの緑について	
緑の満足度	あなたの職場や学校の周りは、緑に恵まれていると感じますか。 「恵まれている」、「やや恵まれている」と回答した方に伺います。なぜ、そう感じますか。[理由を選択肢から回答]
	「あまり恵まれていない」、「恵まれていない」と回答した方に伺います。なぜ、そう感じますか。[理由を選択肢から回答]
緑に対する心地よさの認識	あなたは、以下の緑について、その場を通りかかったり滞在したりしたときに、心地よいと感じますか。[緑の種類を選択肢から回答]
緑に対する重要性の認識	あなたは、以下の緑について、保全したり創出することが、あなたの職場や学校の周りにとって重要と思いますか。[緑の種類を選択肢から回答]
③心地よいと感じる緑のある具体的な場所	
心地よいと感じる緑	あなたが生活している中で、その場を通りかかったり滞在したりしたときに、心地よいと感じる緑のある、具体的な場所をひとつ教えてください。
2) 埼玉県全体の緑について	
埼玉らしいと感じる緑	私たちの周囲には、身近な緑から秩父地方の山地の緑まで、地域や地形などによってさまざまな緑があります。これらのうち、あなたが特に「埼玉らしい」と感じる緑はどれですか。[緑の種類を選択肢から回答]
守りたいと思う緑	さまざまな緑のうち、あなたが守りたいと思う緑はどのようなものですか。[緑の種類を選択肢から回答]
緑に期待する役割	あなたは、緑にどのような役割を期待していますか。[期待する役割を選択肢から回答]
緑地を守るための方策	埼玉県には、個人や企業が所有する緑地が多くあります。そのような緑地を守るためには、何が重要と思いますか。[取組を選択肢から回答]
地域住民の参加について	地域住民がアイデアを出して保全や管理、緑地づくり(整備)に参加していくことが望ましいと考える場所を選んでください。[場所を選択肢から回答]

3. 調査結果

(1) 回答者の属性

1) 性別

県内の男女別人口比は、2015（平成 27）年度国勢調査では男性が 49.9%、女性が 50.1%であり概ね半数ずつである。本調査では男性がやや多く 59.0%、女性が 41.0%であった。

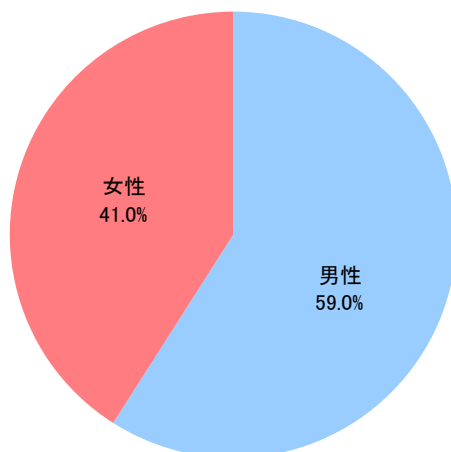


図 2-1 性別 (n=4,039)

2) 年齢

各世代で約 20%ずつ平準的にサンプル数を確保した。

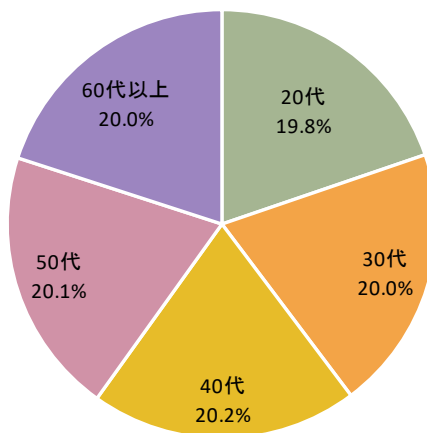
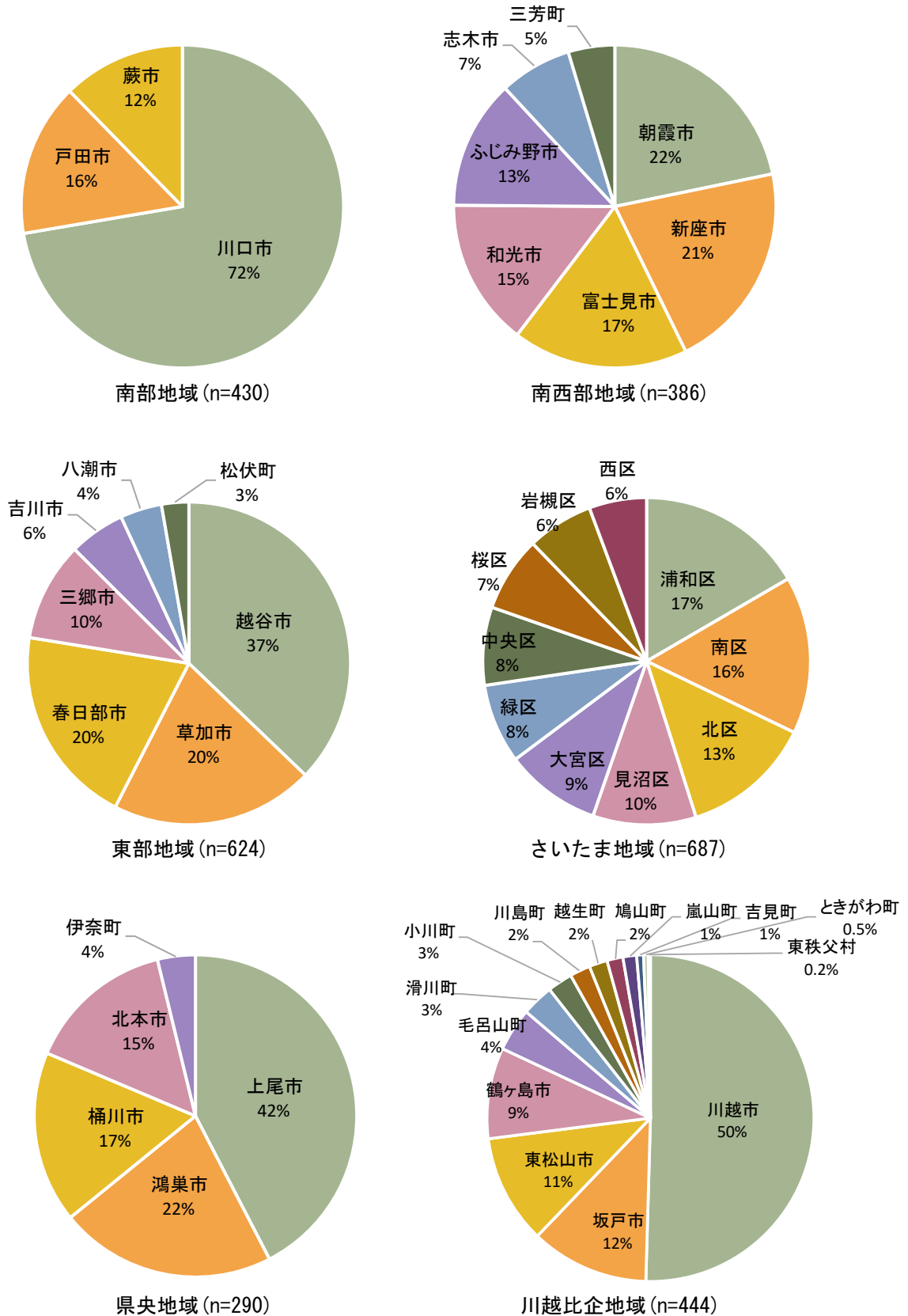


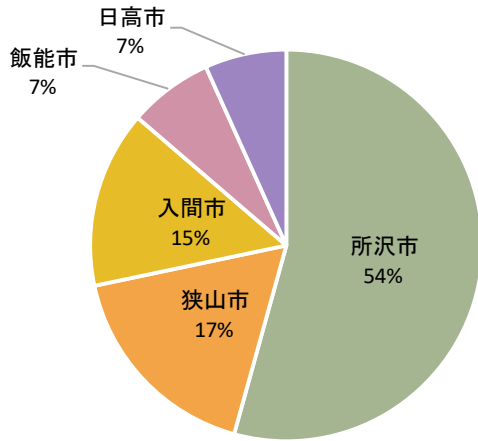
図 2-2 年齢 (n=4,039)

3) 居住市町村

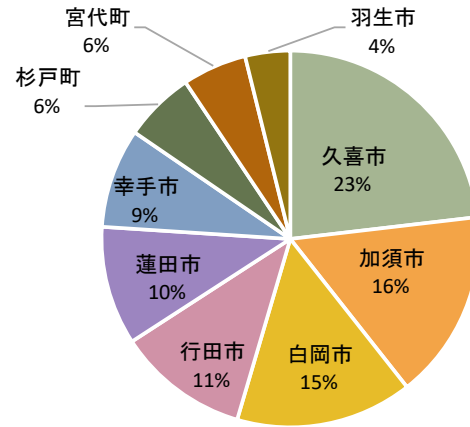
各地域の居住市町村の内訳を下図に示す。10 地域全てで、各地域を構成する全ての市町村の居住者から回答があった。

図 2-3 地域別居住市町村内訳

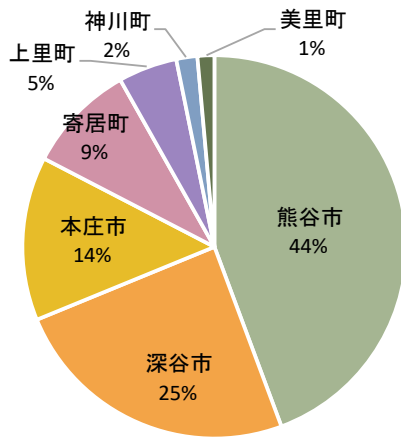




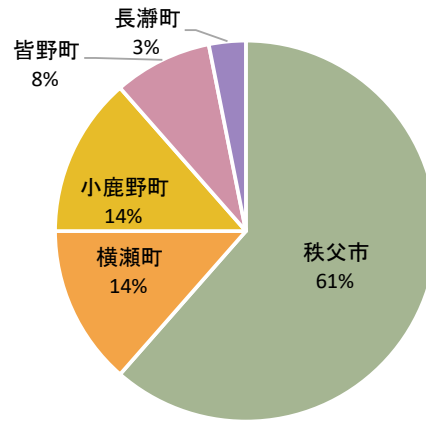
西部地域 (n=431)



利根地域 (n=363)



北部地域 (n=282)



秩父地域 (n=96)

4) 職業

回答者の職業は会社勤務が最も多く（37.9%）、次いで無職（14.4%）、専業主婦・主夫（12.9%）、パート・アルバイト（11.8%）が続いた。

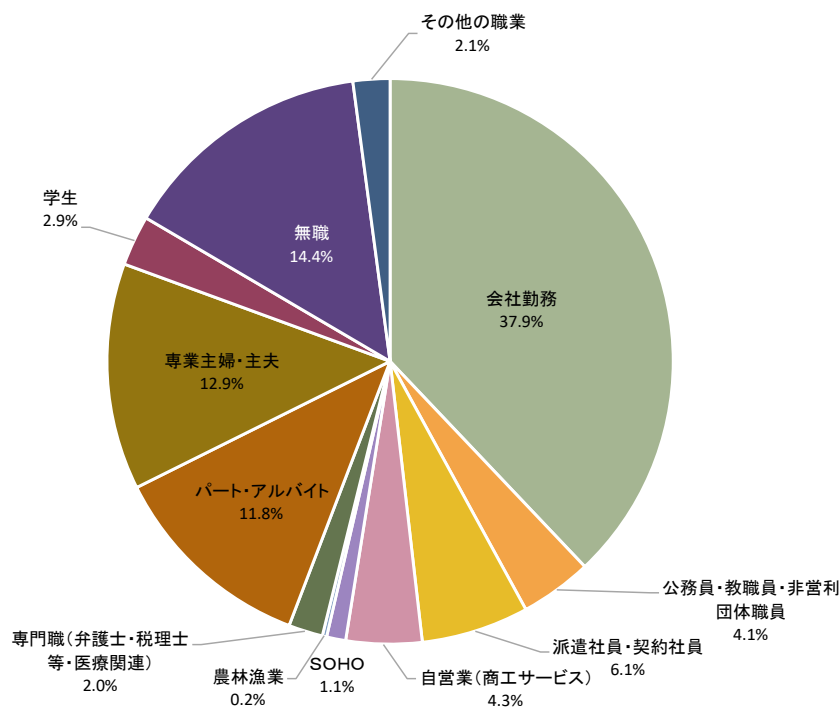


図 2-4 職業 (n=4,039)

5) 現在通っている職場・学校のエリア

各地域とも埼玉県内に通勤、通学している者が最も多かった。南部地域、南西部地域は半数程度が埼玉県以外の都県に通っている。

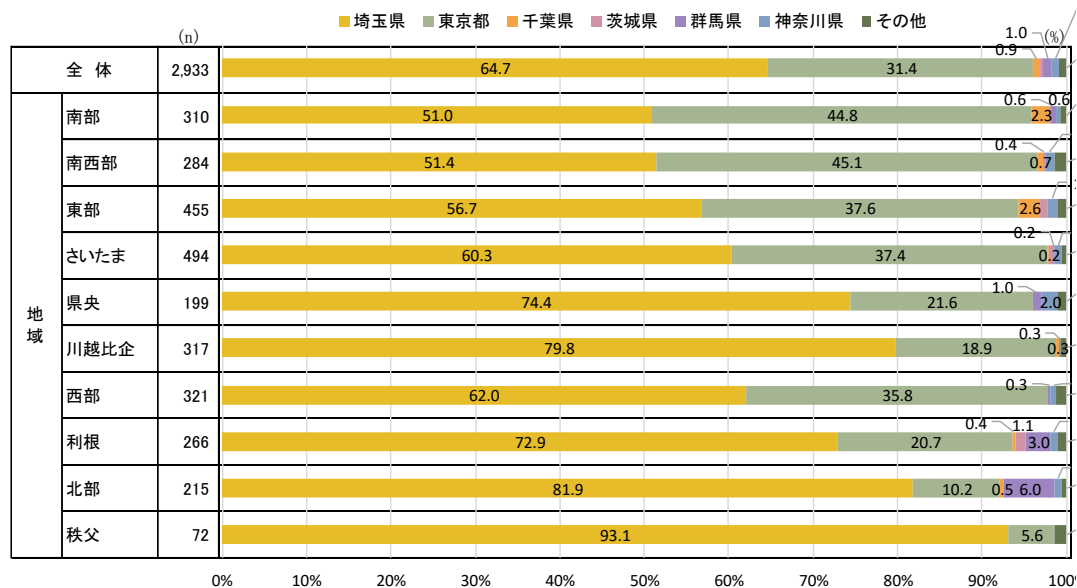


図 2-5 現在通っている職場・学校のエリア（地域別）(n=2,933)

(2) 県民の緑に対する意識の集計結果

調査項目順に集計及び分析結果を示す。

1) 生活している地域（家の周り、職場や学校の周り）の緑について

①家の周りの緑について

Q1	あなたは、お住まいのエリア（目安として家の周り徒歩10分程度の範囲）に愛着を感じていますか。
----	--

住まいのエリアに愛着を感じている（「とても感じている」、「感じている」の合計）回答者は、全体の42.4%である。愛着を感じていない（「まったく感じていない」、「感じていない」の合計）回答者は、16.6%であり、愛着を感じている人数が、感じていない人数を上回った。

地域別にみても、愛着を感じている人数が、感じていない人数を上回る傾向は変わらない。全地域の中では、さいたま地域の回答者が最も愛着を感じている回答割合が高い。

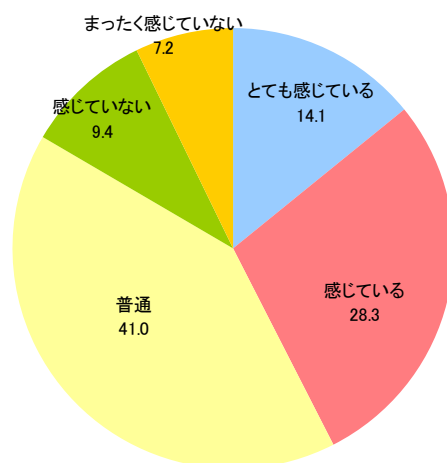


図 2-6 居住エリアに対する愛着 (%) (n=4,039)

		(n)	愛着の程度 (%)					(%)
			とても感じている	感じている	普通	感じていない	まったく感じていない	
地域	全体	4,039	14.1	28.3	41.0	9.4	7.2	
	南部	430	13.0	28.6	44.2	9.3	4.9	
	南西部	387	14.0	25.6	40.8	12.4	7.2	
	東部	625	13.1	28.6	42.1	8.5	7.7	
	さいたま	687	17.8	33.0	35.2	7.4	6.6	
	県央	292	16.1	25.0	40.4	10.3	8.2	
	川越比企	445	12.6	29.9	41.1	8.1	8.3	
	西部	431	11.8	28.1	45.2	7.4	7.4	
	利根	363	12.4	25.3	41.6	11.8	8.8	
	北部	283	14.5	26.5	40.6	12.7	5.7	
	秩父	96	17.7	24.0	40.6	9.4	8.3	

図 2-7 居住エリアに対する愛着（地域別）(n=4,039)

Q2 あなたの家の周りは、緑に恵まれていると感じますか。

家の周りが緑に恵まれていると感じる回答者（「恵まれている」、「やや恵まれている」の合計）が過半を占め（52.5%）、恵まれていないと感じる回答者（「恵まれていない」「あまり恵まれていない」の合計）の19.5%を上回った。

地域別にみると、秩父地域が、恵まれていると感じる回答者が最も多く全体の約80%を占めた。一方、恵まれていないと感じる回答者が最も多い地域は南部地域で全体の約28%であった。

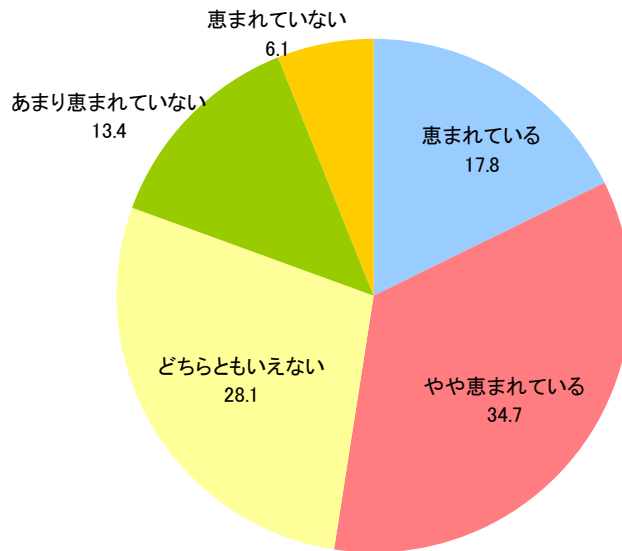


図 2-8 緑に対する満足度 (%) (n=4,039)

		(n)	恵まれている (%)	やや恵まれている (%)	どちらともいえない (%)	あまり恵まれていない (%)	恵まれていない (%)
全体		4039	17.8	34.7	28.1	13.4	6.1
地域	南部	430	10.7	29.1	31.9	19.8	8.6
	南西部	387	16.0	37.0	26.6	13.7	6.7
	東部	625	10.2	31.2	33.4	16.8	8.3
	さいたま	687	16.9	34.8	29.4	12.4	6.6
	県央	292	14.7	34.2	32.2	12.7	6.2
	川越比企	445	19.8	37.1	26.7	11.2	5.2
	西部	431	21.1	42.7	22.0	11.1	3.0
	利根	363	24.2	32.5	28.1	10.2	5.0
	北部	283	25.1	37.1	21.6	13.8	2.5
	秩父	96	50.0	29.2	13.5	1.0	6.3

図 2-9 緑に対する満足度（地域別） (n=4,039)

家の周りの緑に対する満足度と愛着度の相関をみると、家の周りについて「恵まれている」と感じる回答者の 65.4%、「やや恵まれている」と感じる回答者の 52.3%は、住まいのエリアへの愛着も感じている（「とても感じている」、「感じている」の合計）。緑に「恵まれていない」と感じる回答者の半数以上（55.5%）が、住まいのエリアへの愛着について「まったく感じていない」と回答した。

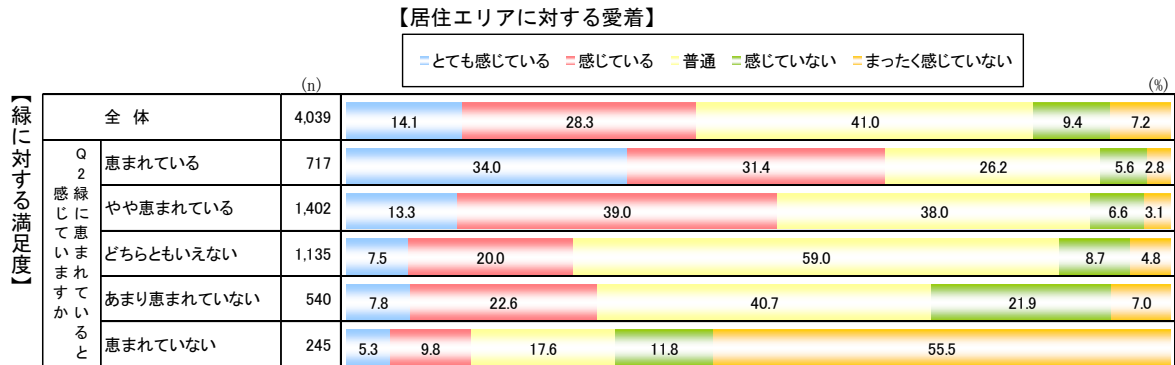


図 2-10 緑に対する満足度と居住エリアに対する愛着の関係 (n=4,039)

Q3	「恵まれている」、「やや恵まれている」と回答した方に伺います。なぜ、そう感じますか。次のうち2つまで、その理由を教えてください。(2つまで)
----	--

家の周りが緑に恵まれていると感じる理由として、「様々な場所に緑があるから」が最も多く(49.2%)、次いで「目に見える緑が多いから」(39.5%)、「大きな緑の空間があるから」(24.4%)が多い。

地域別にみると、最も回答割合が高い「様々な場所に緑があるから」について、利根地域、東部地域、北部地域、南部地域では半数以上が回答し、その他の地域も約45%以上が回答している。各選択肢の回答割合の傾向に大きな違いはみられないものの、秩父地域、西部地域、さいたま地域は「大きな緑の空間があるから」の回答割合が他地域に比べて高く、川越比企地域、県央地域は「目に見える緑が多いから」が高い。

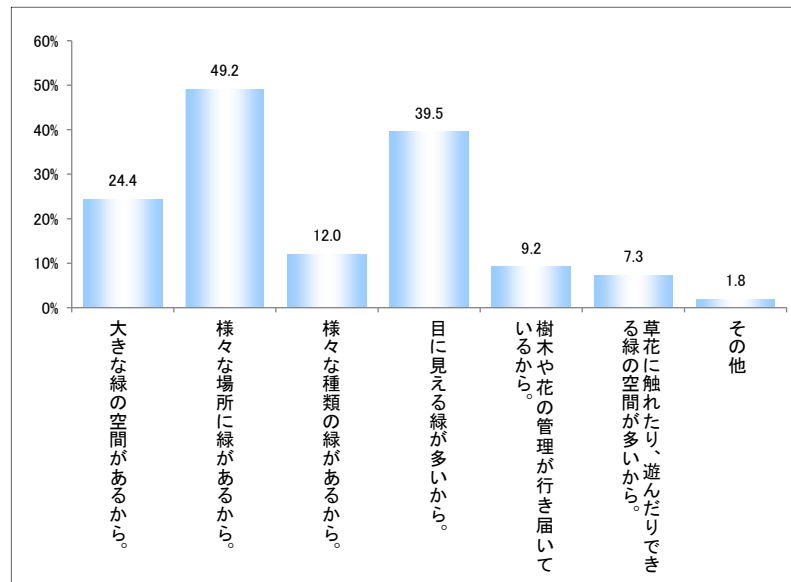


図 2-11 緑が恵まれている、やや恵まれていると感じる理由 (n=2,119)

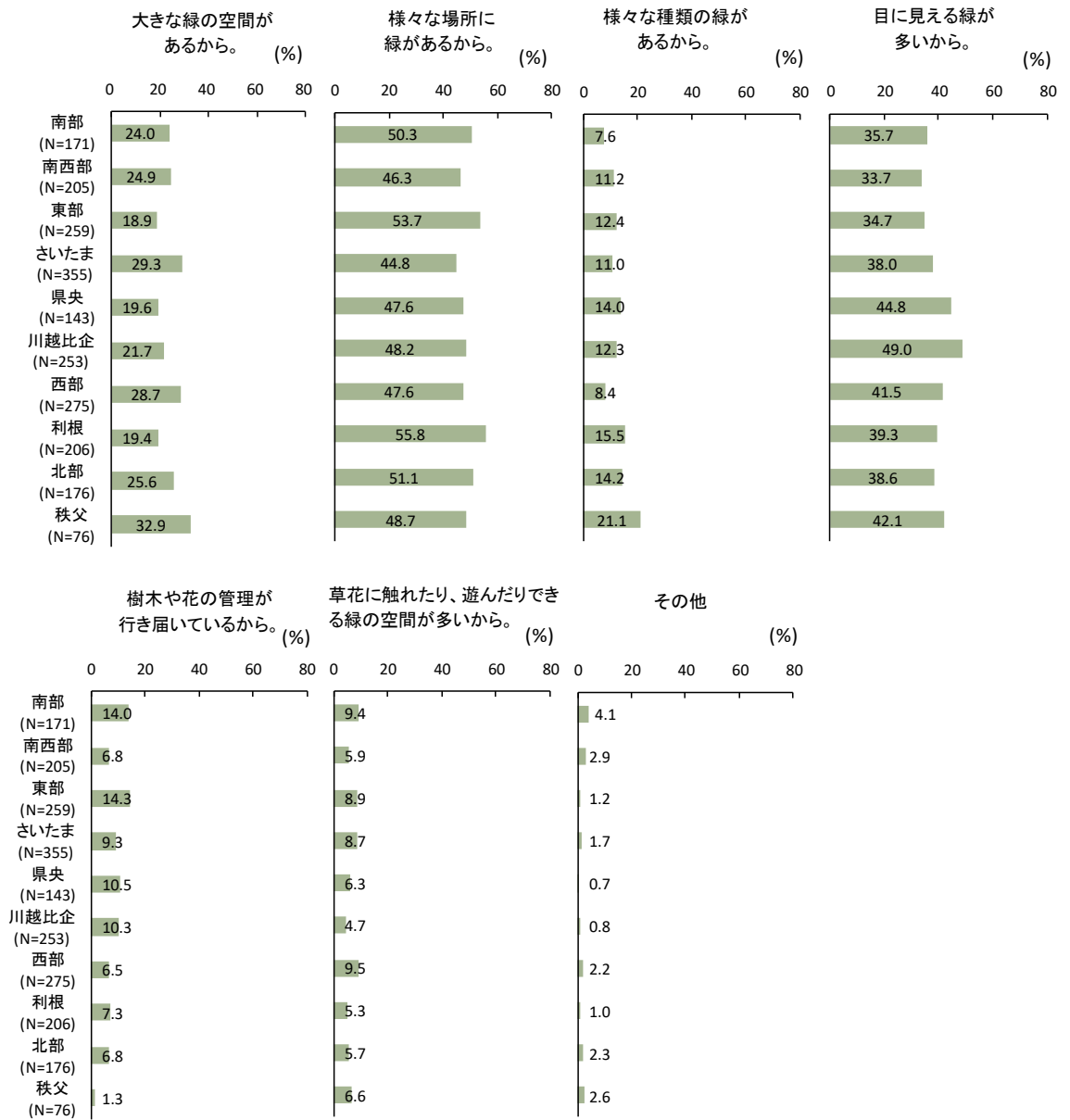


図 2-12 緑に恵まれている、やや恵まれていると感じる理由（地域別）(n=2,119)

Q4	「あまり恵まれていない」、「恵まれていない」と回答した方に伺います。なぜ、そう感じますか。次のうち2つまで、その理由を教えてください。(2つまで)
----	---

家の周りが緑に恵まれていないと感じる理由として、「大きな緑の空間が無いから」(38.6%)と「目に見える緑が少ないから」(38.1%)が多かった。「緑のある場所が限られているから」(25.7%)と「草花に触れたり、遊んだりできる緑の空間が少ないから」(25.2%)が続く。

地域別にみると、最も回答割合が高い「大きな緑の空間が無いから」について、南部地域、東部地域、さいたま地域が全体の4割以上が回答した。北部地域、南西部地域が他地域に比べて低く約33%であった。「目に見える緑が少ないから」については、南部地域、南西部地域、県央地域、北部地域が全体の4割以上が回答した。さいたま地域が最も低く28.5%であった。「緑のある場所が限られているから」については、南部地域がもっと高く(30.3%)、次いでさいたま地域、東部地域であった。「草花に触れたり、遊んだりできる緑の空間が少ないから」については秩父地域が他地域に比べて突出しており、次いで利根地域、川越比企地域も全体の3割以上が回答した。

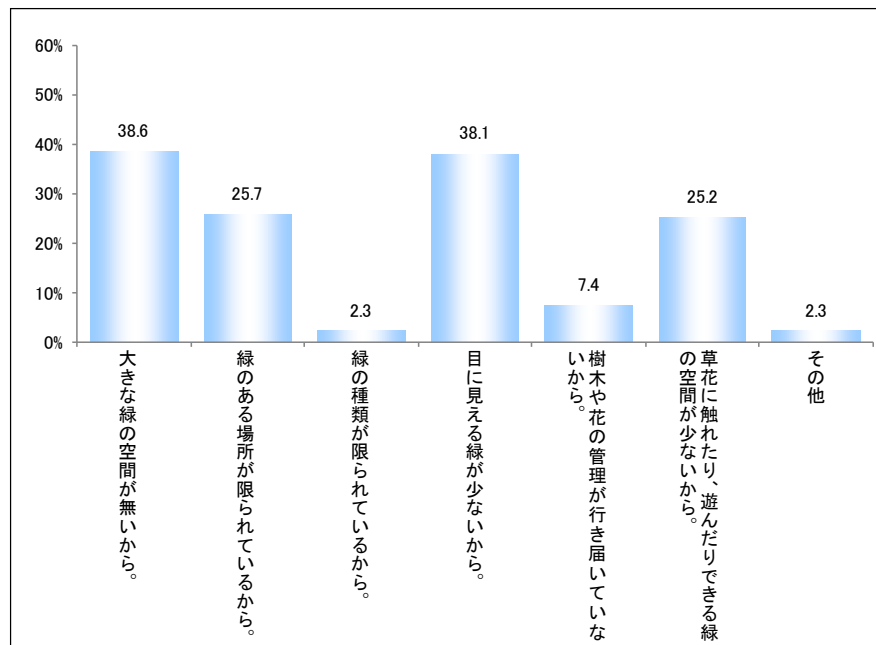


図 2-13 緑に恵まれていない、あまり恵まれていないと感じる理由 (n=785)

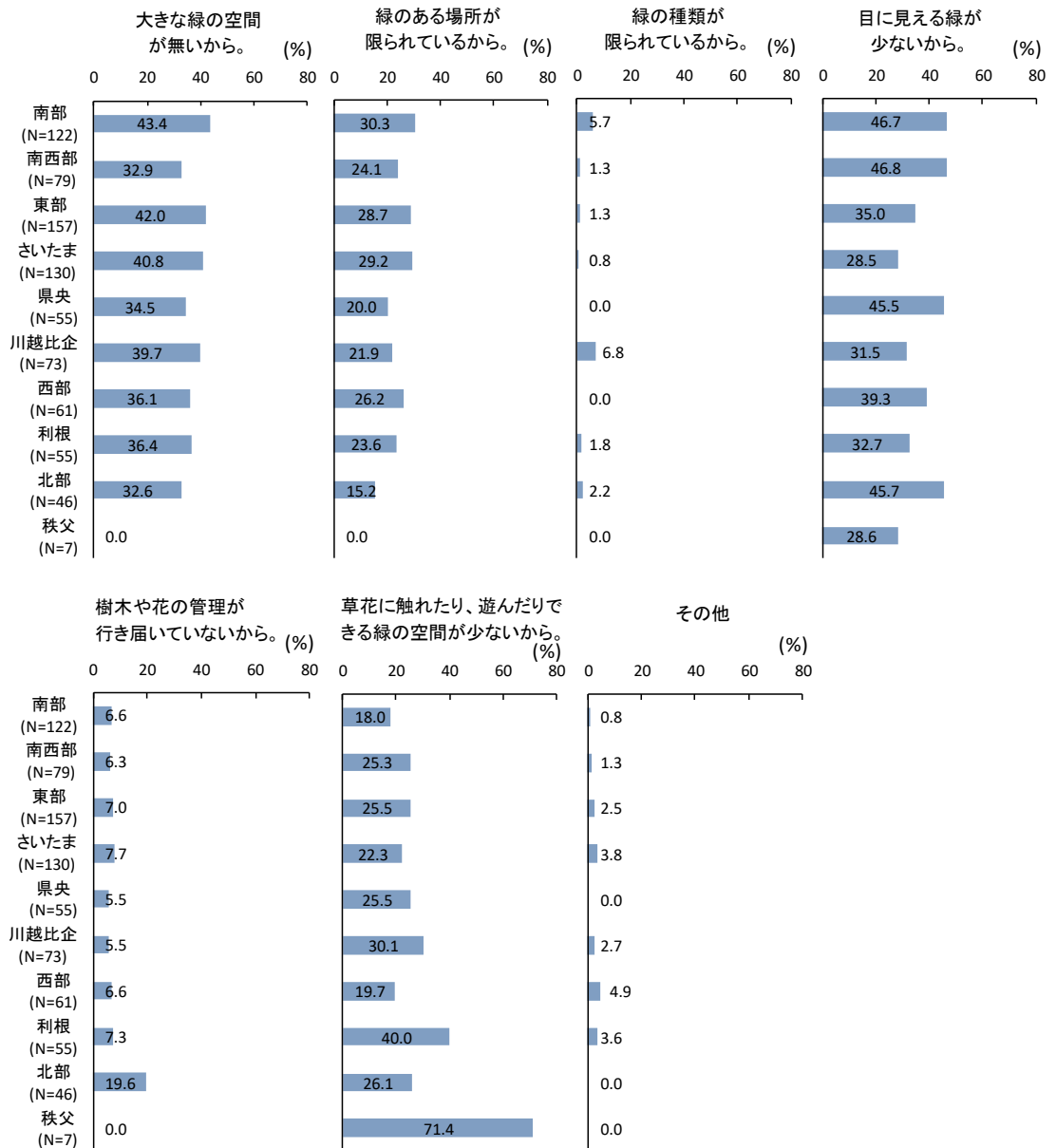


図 2-14 緑に恵まれていない、あまり恵まれていないと感じる理由（地域別）（n=785）

Q5 あなたは、以下の緑について、その場を通りかかったり滞在したりしたときに、心地よいと感じますか。また、それぞれの緑の種類が、家の周りには無いと思う場合には、「家の周りには存在しない」を選択してください。（それぞれひとつずつ）

心地よいと感じる（「とてもよい」、「よい」の合計）回答が最も多い緑の種類は「公園」（58%）、次いで「個人の家の緑」（49.5%）、「街路樹」（48.7%）、「河川敷・河川」（45%）、「雑木林、屋敷林、境内林」（40.6%）であった。事業所等の緑は、最も低く28%であった。

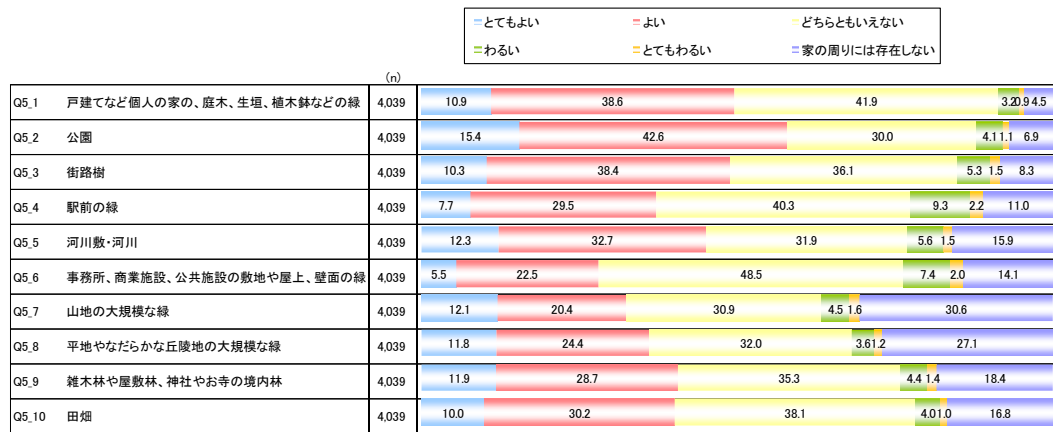


図 2-15 緑の種類ごとの緑の心地よさ (n=4, 039)

Q6 あなたは、以下の緑について、保全したり創出することが、あなたの家の周りにとって重要としますか。（それぞれひとつずつ）
あなたの家の周りには存在しないため、重要かどうかわからない場合には、「どちらともいえない」を選択してください。

重要と感じる（「とても重要である」、「重要である」の合計）回答が最も多い緑の種類は「公園」（66%）、次いで「街路樹」（59.8%）、「河川敷・河川」（53.1%）、「駅前の緑」（51.9%）、「雑木林、屋敷林、境内林」（50.9%）であった。事業所等の緑は、最も低く38.3%であった。

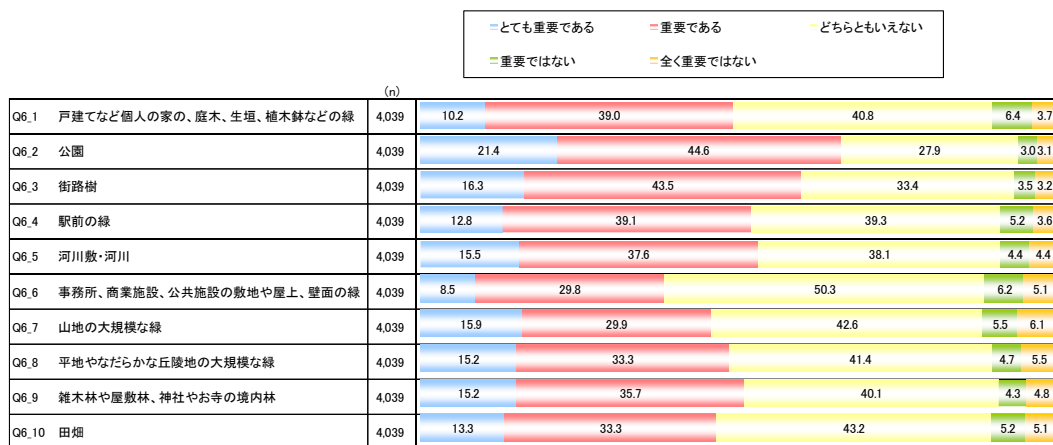


図 2-16 緑の種類ごとの緑の重要度 (n=4, 039)

緑の種類別に、「心地よいと感じる」、「保全・創出が重要と思う」回答の相関を下図に示す。

保全創出の重要度平均は、いずれの緑の種類も「どちらともいえない」（図中縦軸の「3」）を上回り、回答者の多くが、保全・創出が重要と考えている。一方、心地よさ平均には違いがみられ、「どちらともいえない」（図中横軸の「3」）を下回るものも存在する。

選択肢のなかでも特に、県民が心地よいと感じており、かつ保全・創出を重要と考えている緑は「公園」であった。街路樹、個人の家の緑についても、心地よさの平均が高い。

一方、山地の大規模な緑、平地やなだらかな丘陵地の大規模な緑などは、心地よさ平均が「どちらともいえない」を下回り、また他の緑の種類より低かった。保全・創出の重要度が最も低い種類は、事務所等の緑であり、心地よさも「どちらともいえない」を下回った。

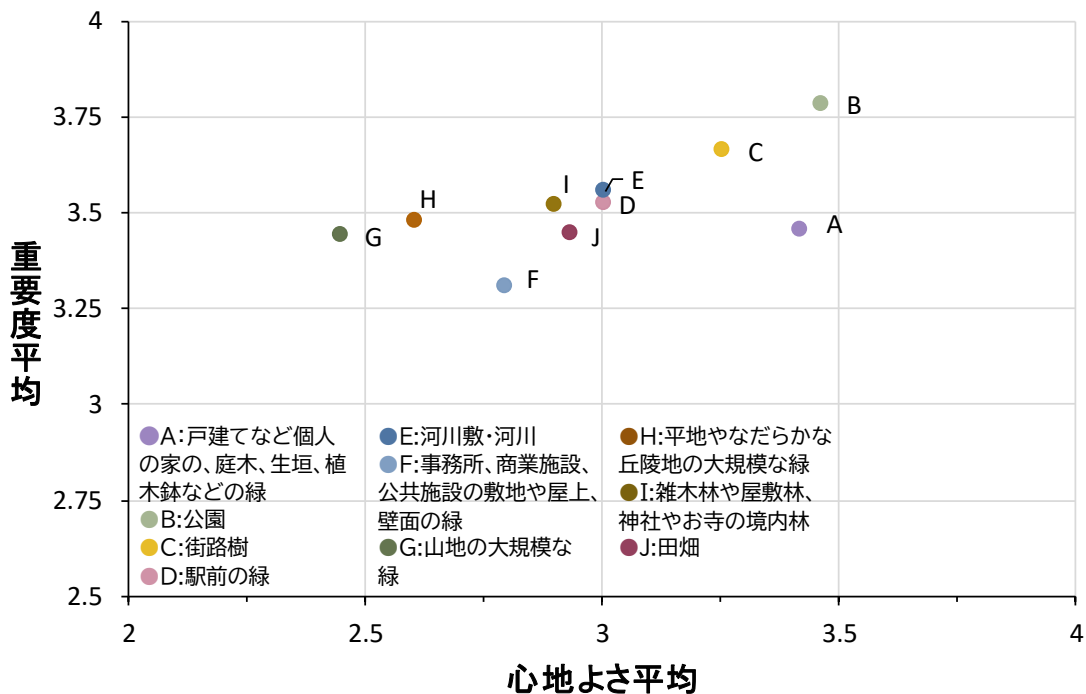


図 2-17 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（県全体）

- 【心地よさ平均】回答者が評価した緑の種類別の心地よさ（5：とてもよい、4：よい、3：どちらともいえない、2：わるい、1：とてもわるい）の平均値。数値が大きいほど、心地よいと感じている人の割合が高い。
- 【重要度平均】回答者が評価した緑の種類別の重要度（5：とても重要、4：重要、3：どちらともいえない、2：重要ではない、1：全く重要ではない）の平均値。数値が大きいほど、保全・創出が重要と感じている人の割合が高い。

【南部地域】

公園と街路樹は県全体よりも「心地よさ」が高い。個人の家の緑、駅前の緑、河川敷・河川は「心地よさ」の平均値が「どちらともいえない（図中横軸「3」）」を上回っている。山地の緑、田畑等、「心地よさ」が低い緑の種類は、心地よさの平均値が県全体平均の値を下回っている。

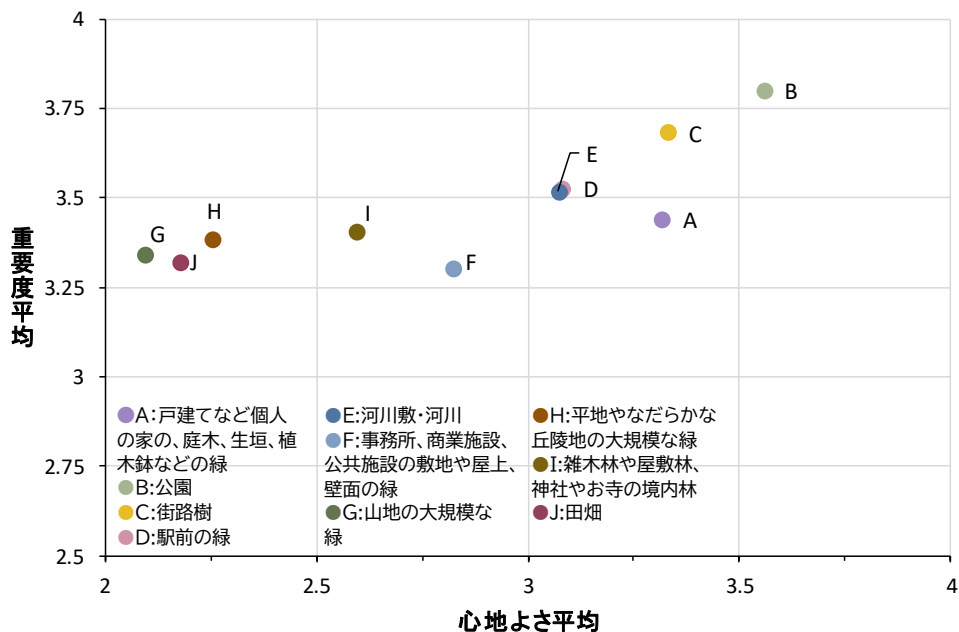


図 2-18 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（南部地域）

【南西部地域】

緑の各種類の傾向は、全県の傾向と概ね同じとなっている。公園と街路樹に「心地よい」と感じ、かつ「保全・創出が重要」と考えている。個人の家の緑は「心地よさ」の値が高く、上で述べた3種の緑以外については、心地よさの平均値が概ね「3」（どちらともいえない）あるいは、「3」を下回っている。

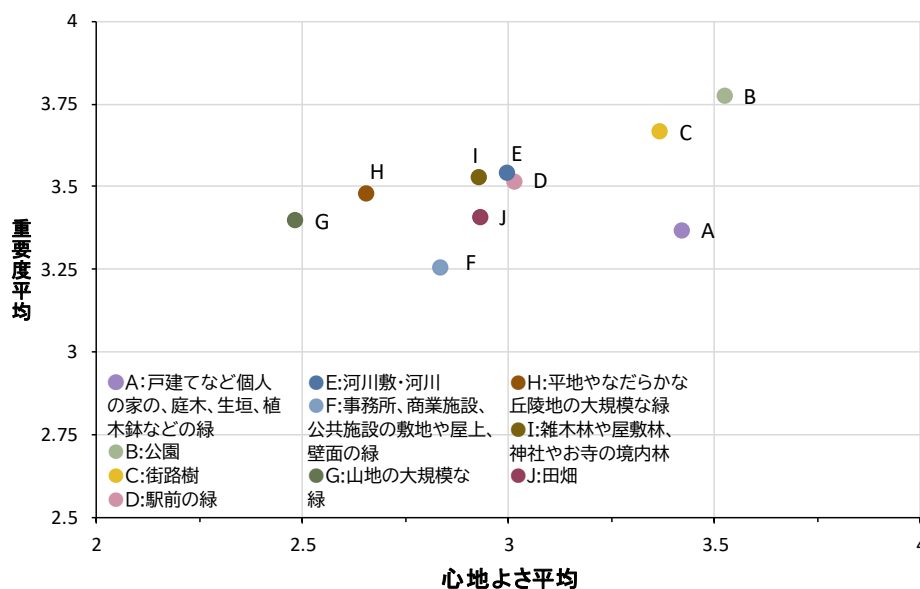


図 2-19 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（南西部地域）

【東部地域】

河川敷・河川の「心地よさ」が全県よりも高い。一方、平均値が概ね「3」（どちらともいえない）を下回る緑の種類は、全県よりも心地よさが低く、特に山地の緑、丘陵地の緑、雑木林等は、大幅に下回っている。

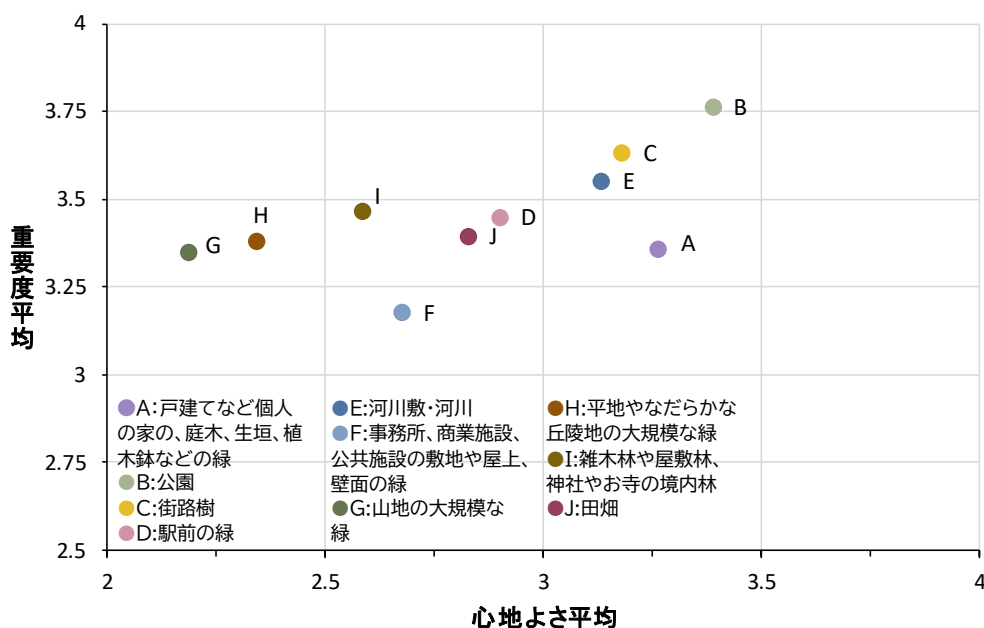


図 2-20 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（東部地域）

【さいたま地域】

公園、街路樹、個人の家の緑については、「心地よさ」の値が高い全県の傾向と同様である。駅前の緑については、他地域と比較して「心地よさ」の値が高く、また「保全・創出の重要度」も高い（全地域のうち最も右上に位置している）。

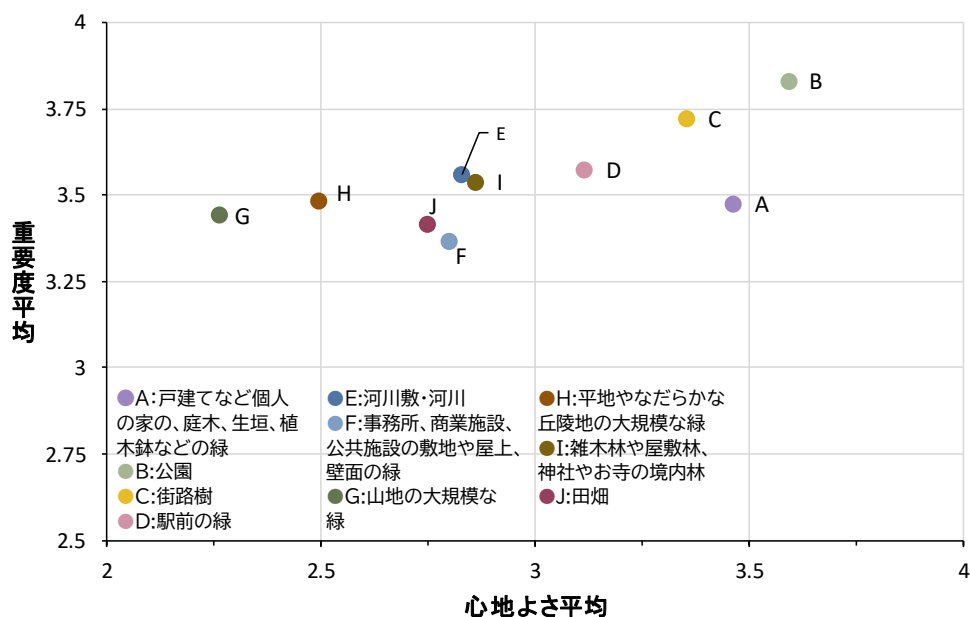


図 2-21 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（さいたま地域）

【県央地域】

河川敷・河川の「心地よさ」の値が、全県よりも低い。その他については、全県の傾向と概ね同じである。

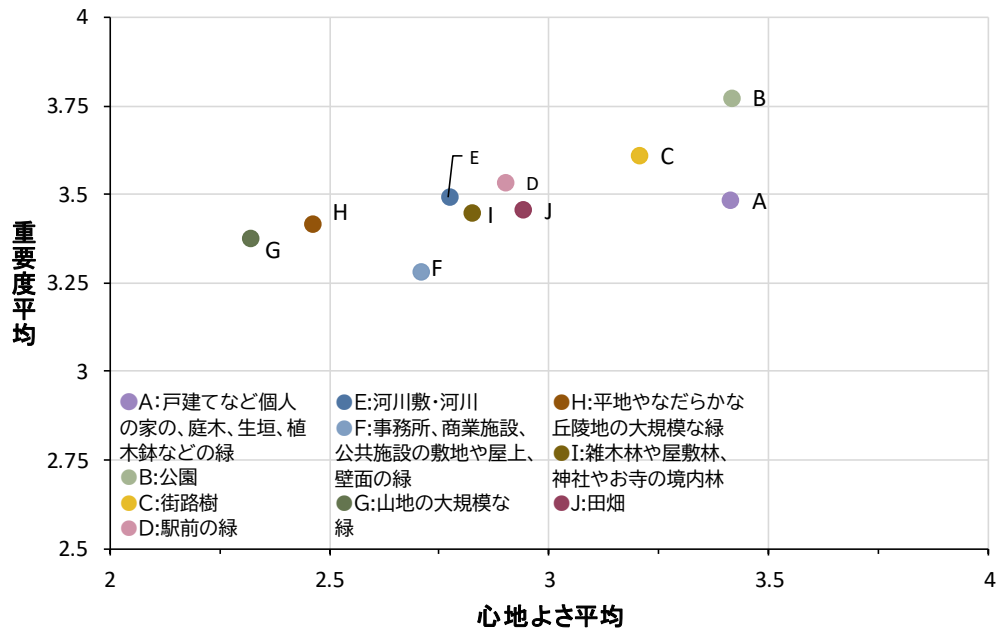


図 2-22 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（県央地域）

【川越比企地域】

公園と個人の家の緑が県全体よりも「心地よさ」が高い。田畑と雑木林・屋敷林・境内林については、県全体では「心地よさ」の平均値が「どちらともいえない（図中横軸「3」）」を下回るのに対して、本地域では上回っている。一方、街路樹は、県全体よりも「心地よさ」が低い。

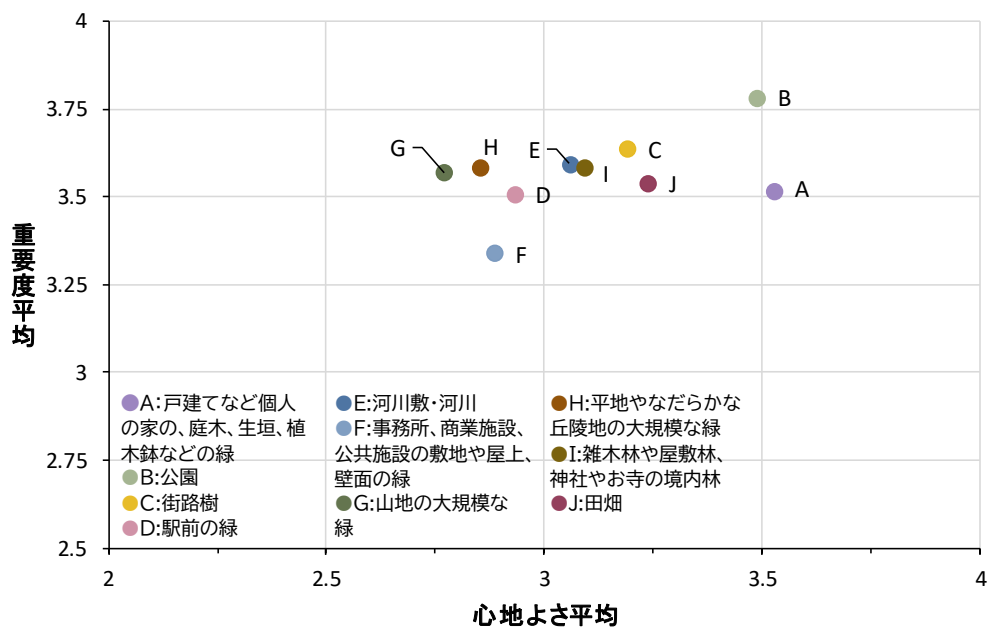


図 2-23 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（川越比企地域）

【西部地域】

丘陵地の緑と山地の緑は、「心地よさ」の値が「どちらともいえない（図中横軸「3」）」を下回っているものの、県全体よりは高くなっている。雑木林・屋敷林・境内林については、県全体では「3」を下回る一方、本地域では上回っている。

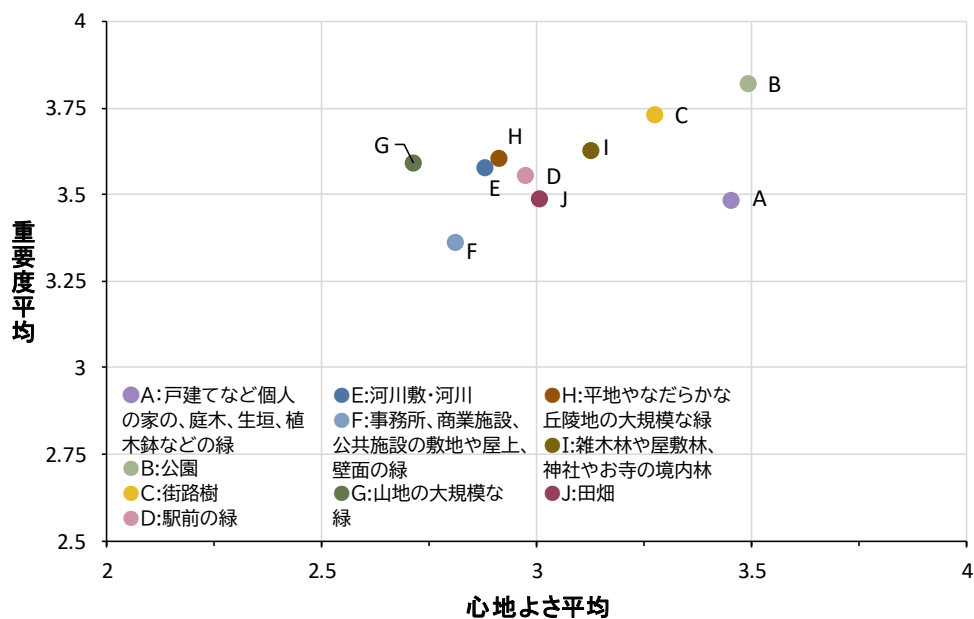


図 2-24 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散佈図（西部地域）

【利根地域】

河川敷・河川と田畑の「心地よさ」が県全体平均よりも高く、特に田畑については、個人の家の緑、公園と並んで高い値を示しており、圏央道ゾーンの位置する地域では唯一の傾向である。一方、山地の緑は県全体を下回っている。

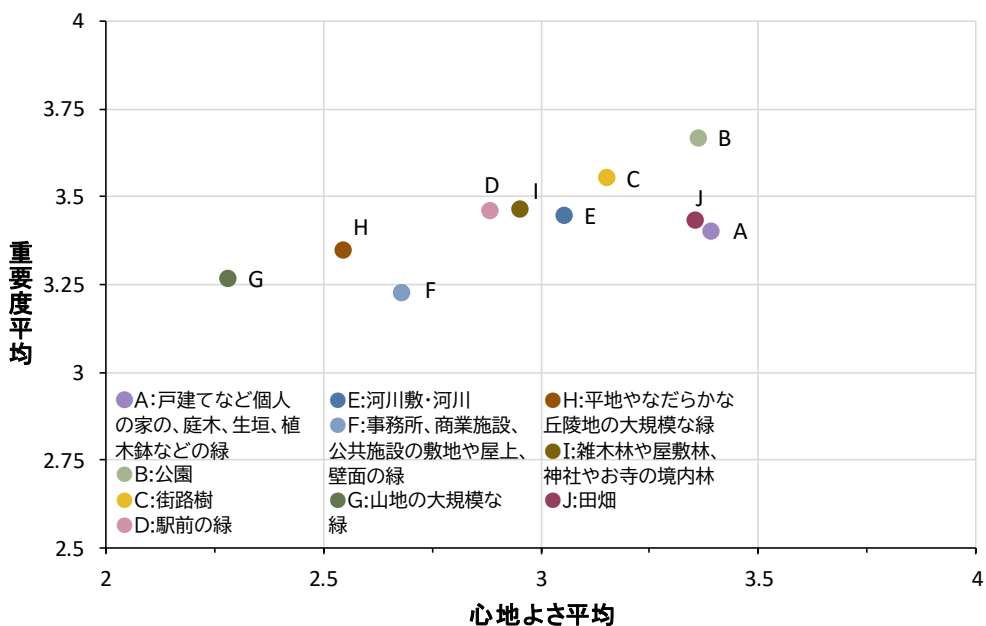


図 2-25 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散佈図（利根地域）

【北部地域】

田畑が県平均を大幅に上回るなど、ほとんどの緑の種類が、「心地よさ」の値が「どちらともいえない（図中横軸「3」）」を上回るあるいは同程度となっている。一方、公園は、県全体よりも「心地よさ」が低くなっている。

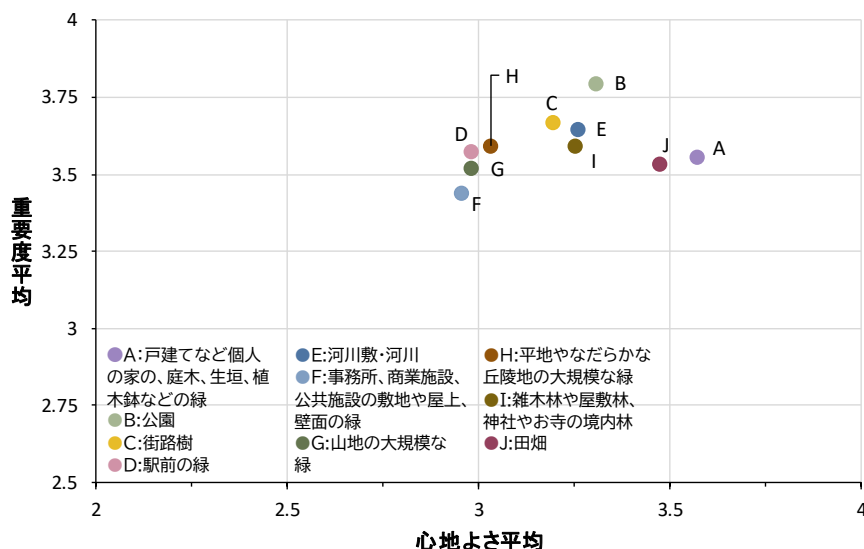


図 2-26 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（北部地域）

【秩父地域】

ほとんどの緑の種類が、「心地よさ」の値が「どちらともいえない（図中横軸「3」）」を上回るあるいは同程度となっている。この傾向は、同じ県北ゾーンの北部地域でもみられるが、本地域では、さらに「保全・創出が重要」の値が高い傾向にある。また、県内他地域では、「心地よい」と感じ、かつ「保全・創出が重要」と考えている緑の種類（図中右上に位置する緑の種類）として、公園が最も高い値を示しているが、本地域では、山地の大規模な緑が最も高い。公園は県平均よりも低く、一方田畑は県平均を大幅に上回っている。

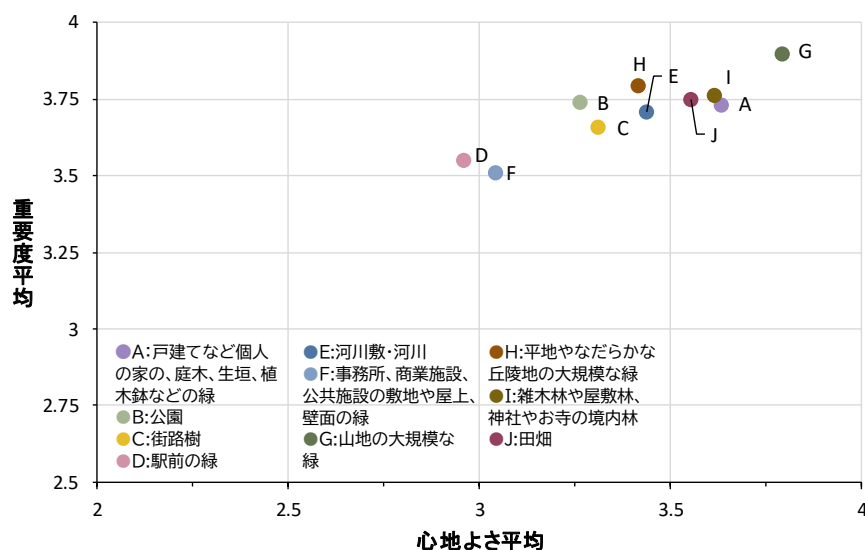


図 2-27 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（秩父地域）

②職場や学校の周りの緑について

Q7 あなたの職場や学校の周りは、緑に恵まれていると感じますか。

緑に恵まれていると感じる回答者（「恵まれている」、「やや恵まれている」の合計）と、恵まれていないと感じる回答者（「恵まれていない」「あまり恵まれていない」の合計）、「どちらともいえない」を選択した回答者が、それぞれ全体の概ね3割ずつを占めた。

職場や学校のある地域別にみると、緑に恵まれていると感じる回答が最も多い地域は秩父地域であった。次いで西部、川越比企、北部が続く。南部、東部、さいたま地域は、恵まれていると感じる回答が全体の2割程度あるいは2割未満であり他地域に比べて少ない。

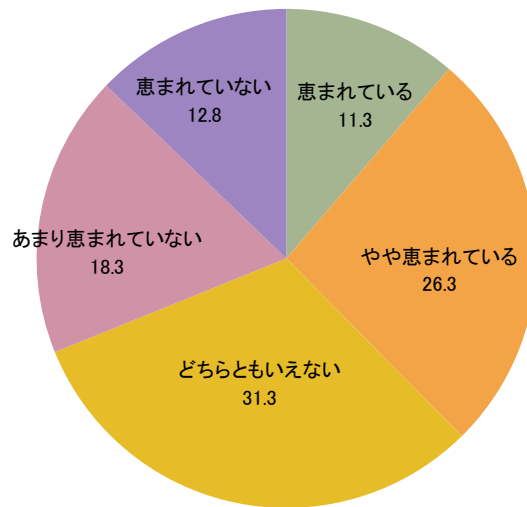


図 2-28 緑に対する満足度 (%) (n=2, 933)

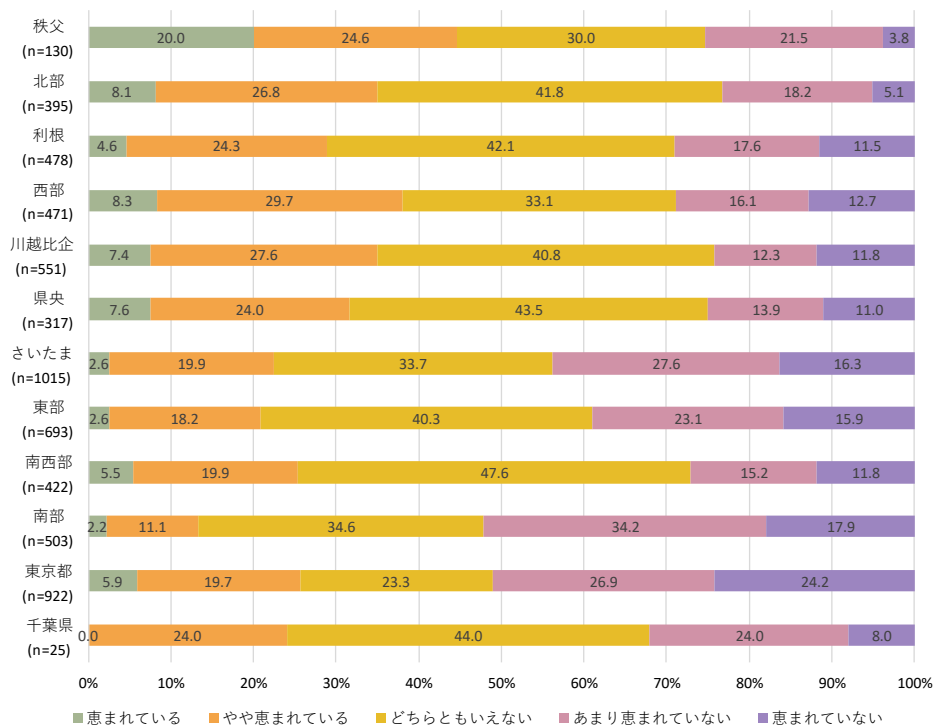


図 2-29 緑に対する満足度 (地域別)

Q8	「恵まれている」、「やや恵まれている」と回答した方に伺います。なぜ、そう感じますか。次のうち2つまで、その理由を教えてください。(2つまで)
----	--

恵まれていると感じる理由について、「様々な場所に緑があるから」が最も多く43.6%、次いで「目に見える緑が多いから」が39.0%、「大きな緑の空間があるから」が28.6%であった。回答の傾向は、家の周りについての回答と概ね変わらない。

職場や学校のある地域別にみると、最も回答割合が高い「様々な場所に緑があるから」について、南部地域、利根地域は回答が全体の5割を超えた。「目に見える緑が多いから」については、南西部地域、川越比企地域、県央地域、利根地域において全体の4割以上が回答している。「大きな緑の空間があるから」は特に地域差が存在し、秩父地域では5割が回答する一方、南部、東部、さいたま、利根地域では約2割程度であった。

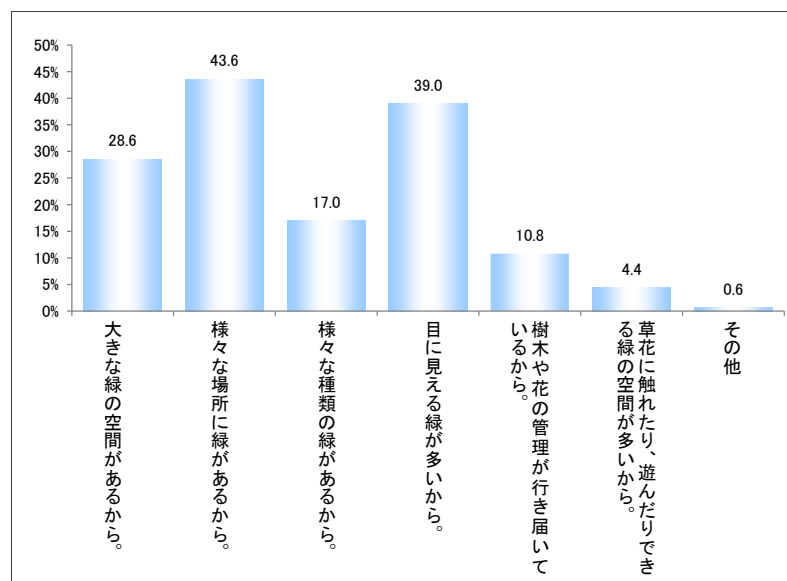


図 2-30 緑に恵まれている、やや恵まれていると感じる理由 (n=1, 103)

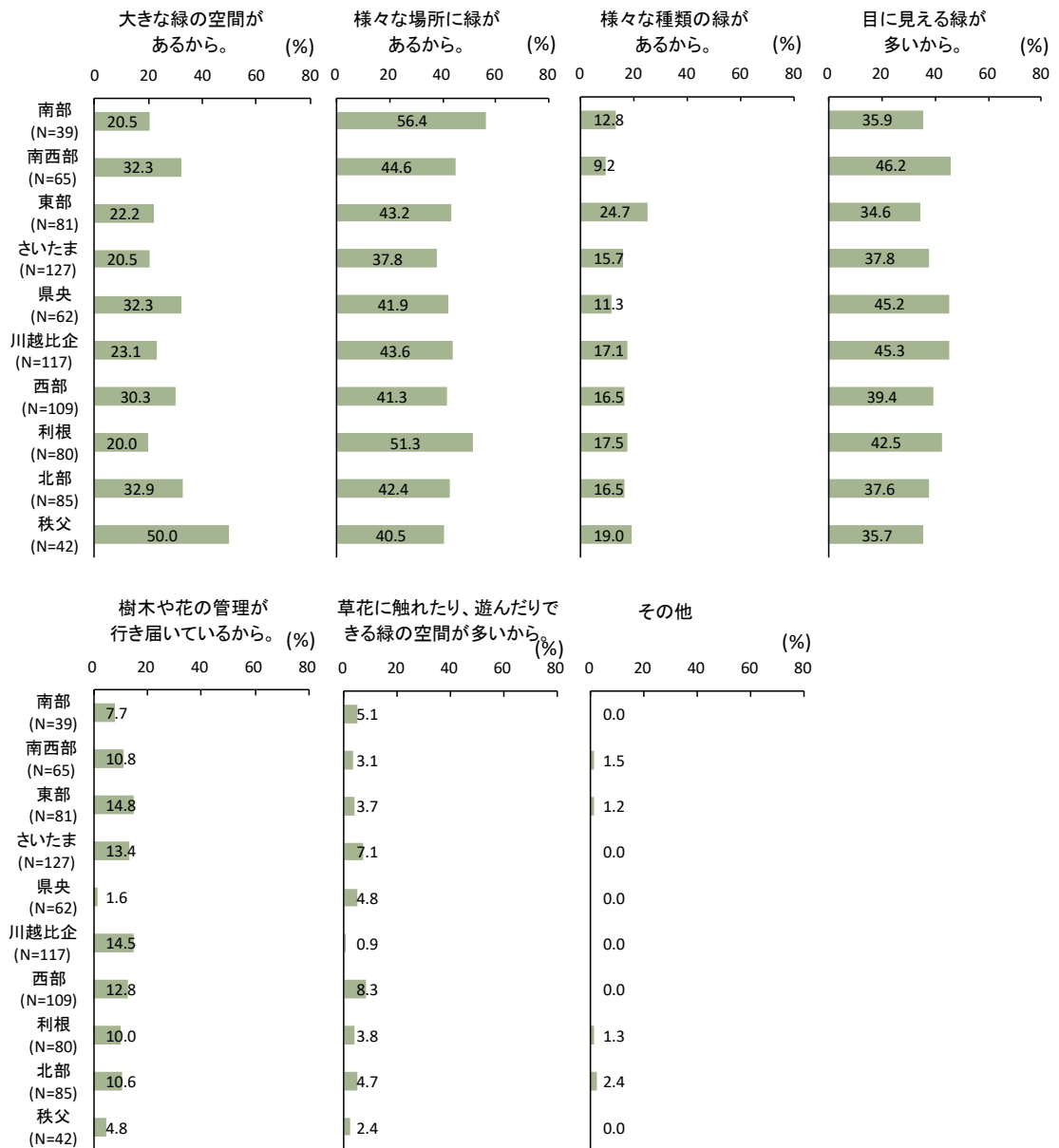


図 2-31 緑に恵まれている、やや恵まれていると感じる理由（地域別）(n=1, 103)

Q9	「あまり恵まれていない」、「恵まれていない」と回答した方に伺います。なぜ、そう感じますか。次のうち2つまで、その理由を教えてください。(2つまで)
----	---

恵まれていないと感じる理由について、「目に見える緑が少ないから」が 49.4%と最も多く、次いで「大きな緑の空間が無いから」が 41.1%、「緑のある場所が限られているから」(24.1%)、「草花に触れたり、遊んだりできる緑の空間が少ないから」(16.0%)が続く。

職場や学校のある地域別にみると、最も回答割合が高い「目に見える緑が少ないから」について地域差が存在している。東部地域、南部地域、西部地域、南西部地域では、全体の5割以上が回答する一方、県央地域、川越比企地域、利根地域では全体の4割未満であり、秩父地域は3割を下回った。「大きな緑の空間が無いから」についても地域差が存在し、「目に見える緑が少ないから」とは異なる傾向がみられた。南西部地域、利根地域が他地域に比べて回答割合が高い一方、東部地域、北部地域、秩父地域の回答割合が低い。

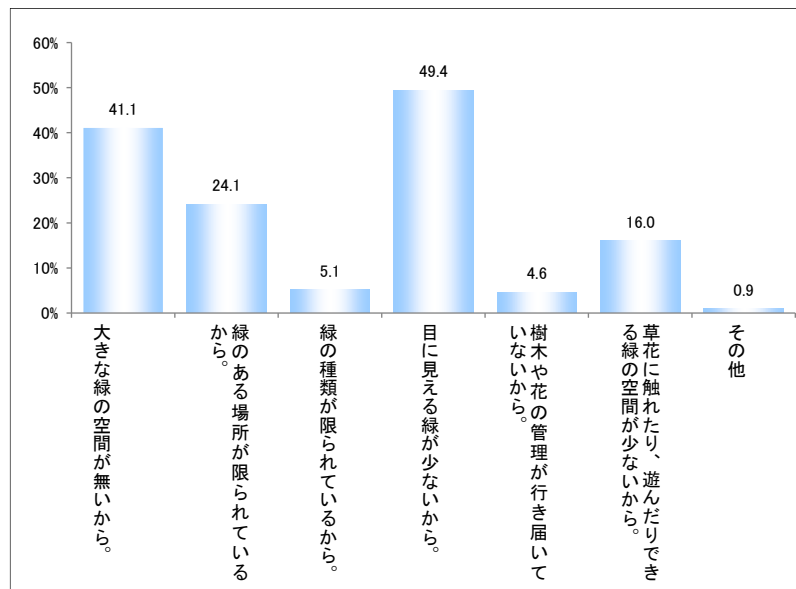


図 2-32 緑に恵まれていない、あまり恵まれていないと感じる理由 (n=913)

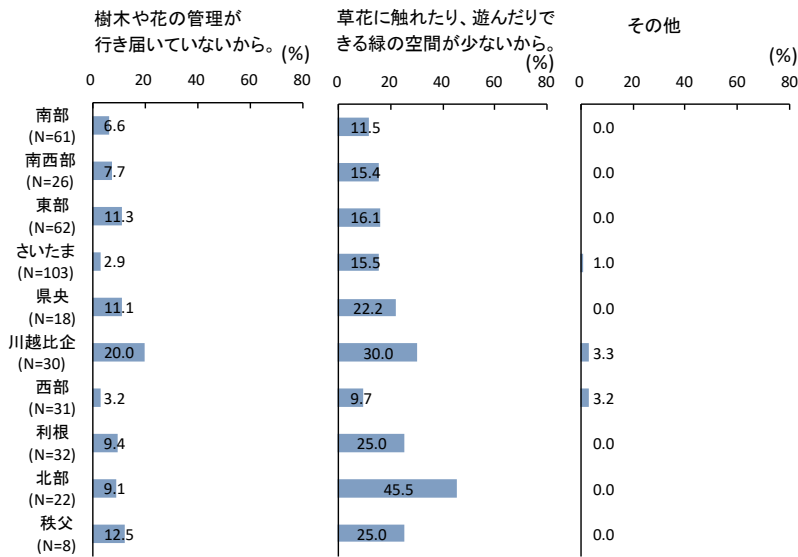
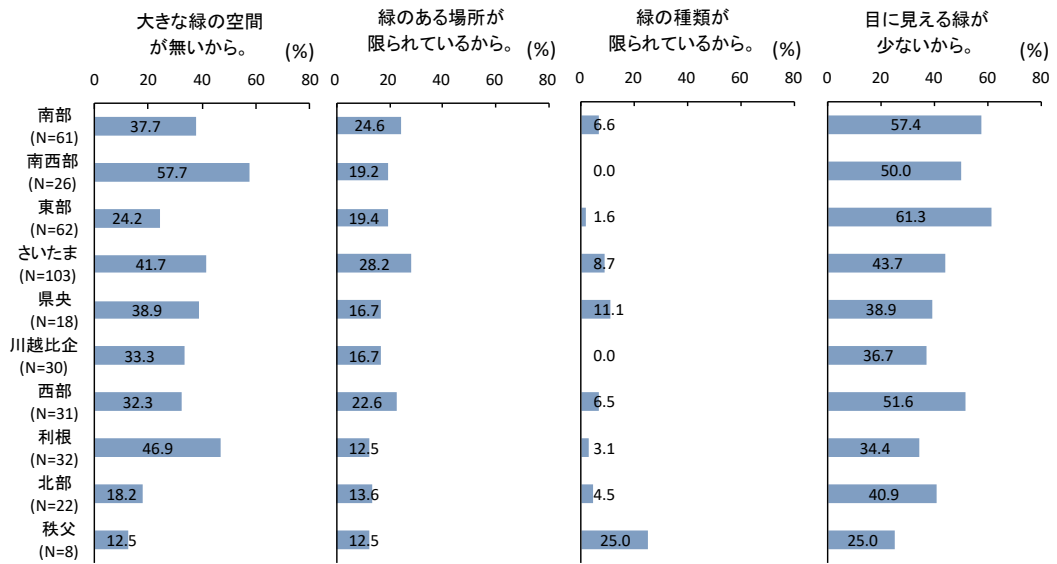


図 2-33 緑に恵まれていない、あまり恵まれていないと感じる理由（地域別）(n=913)

Q10 あなたは、以下の緑について、その場を通りかかったり滞在したりしたときに、心地よいと感じますか。また、それぞれの緑の種類が、職場や学校の周りには無いと思う場合には、「職場や学校の周りには存在しない」を選択してください。（それぞれひとつずつ）

心地よいと感じる回答（「とてもよい」、「よい」の合計）が最も多い緑の種類は「公園」（47.3%）、次いで「街路樹」（45.2%）、「個人の家の緑」（39.2%）であった。事業所等の緑は29.1%で、山地の緑の次に回答割合が低かった。

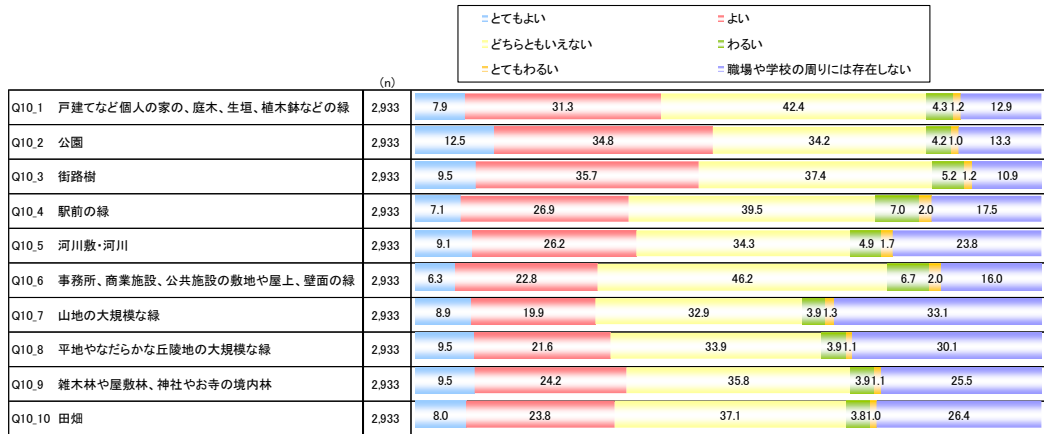


図 2-34 緑の種類ごとの緑の心地よさ (n=2, 933)

Q11 あなたは、以下の緑について、保全したり創出することが、あなたの職場や学校の周りにとって重要と思いますか。あなたの職場や学校の周りには存在しないため、重要かどうかわからない場合には、「どちらともいえない」を選択してください。

重要と感じる回答（「とても重要である」、「重要である」の合計）が最も多い緑の種類は「公園」（57.3%）、次いで「街路樹」（54.9%）、「駅前の緑」（47.2%）、「個人の家の緑」（44.8%）、「河川敷・河川」（44.8%）が続く。事業所等の緑は39.3%で、山地の緑、田畑に続き回答割合が低かった。

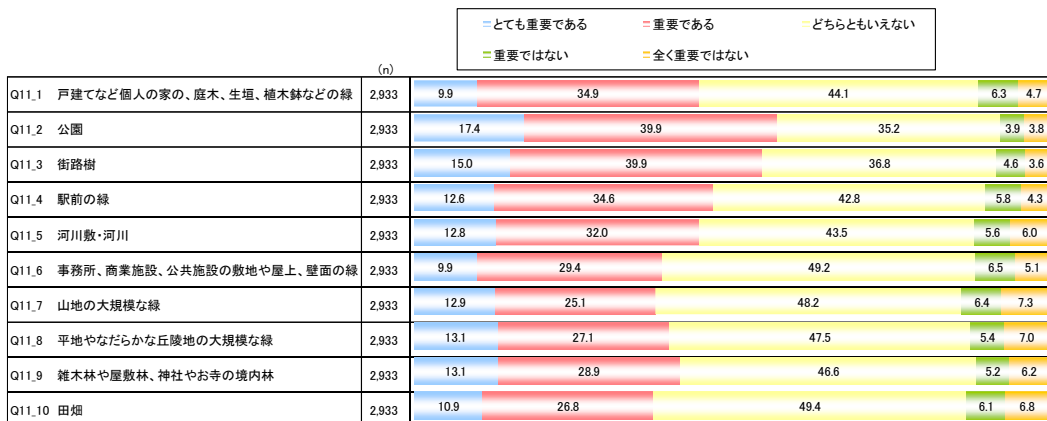


図 2-35 緑の種類ごとの緑の重要度 (n=2, 933)

緑の種類別に、「心地よいと感じる」、「保全・創出が重要と思う」回答の相関を下図に示す。

心地よさ平均、保全創出の重要度平均ともに、いずれの緑の種類も「どちらともいえない」を上回っている。

選択肢のなかでも特に、県民が心地よいと感じており、かつ保全・創出を重要と考えている緑は「公園」、「街路樹」であった。

「事務所等の緑」は、選択肢のなかで最も心地よさの平均値が小さく、重要度も公園や街路樹等と比較して低い結果となった。また、「駅前の緑」が、事務所等の緑に次いで心地よさが低い一方、重要度は、公園、街路樹に次いで高くなっている。

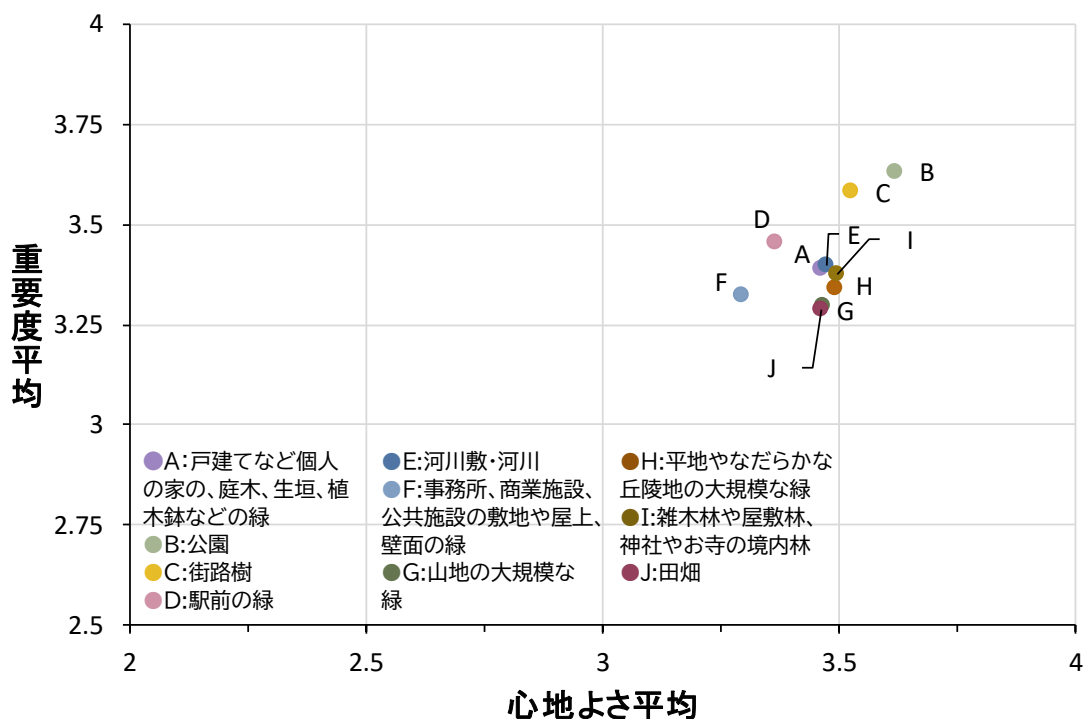


図 2-36 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図 (県全体)

- 【心地よさ平均】 回答者が評価した緑の種類別の心地よさ (5 : とてもよい、4 : よい、3 : どちらともいえない、2 : わるい、1 : とてもわるい) の平均値。数値が大きいほど、心地よいと感じている人の割合が高い。
- 【重要度平均】 回答者が評価した緑の種類別の重要度 (5 : とても重要、4 : 重要、3 : どちらともいえない、2 : 重要ではない、1 : 全く重要ではない) の平均値。数値が大きいほど、保全・創出が重要と感じている人の割合が高い。

【南部地域】

ほとんどの緑の種類について、全県の傾向よりも「心地よさ」が低い。特に公園と街路樹については、県全体では他の緑の種類よりも心地よさが高い傾向にあるなか、本地域では他の緑の種類の同程度の心地よさとなっている。事務所等の緑、駅前の緑は、当程度である。

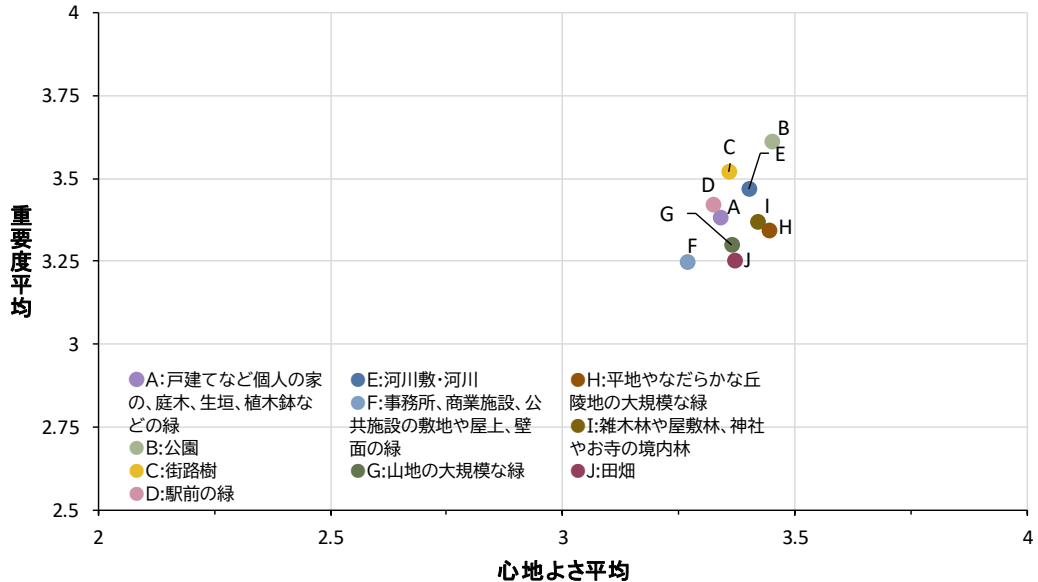


図 2-37 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（南部地域）

【南西部地域】

全県の傾向と概ね同じとなっているが、特に河川敷・河川と田畑については、「心地よさ」と「保全・創出の重要さ」の両面で、県全体を上回っている。

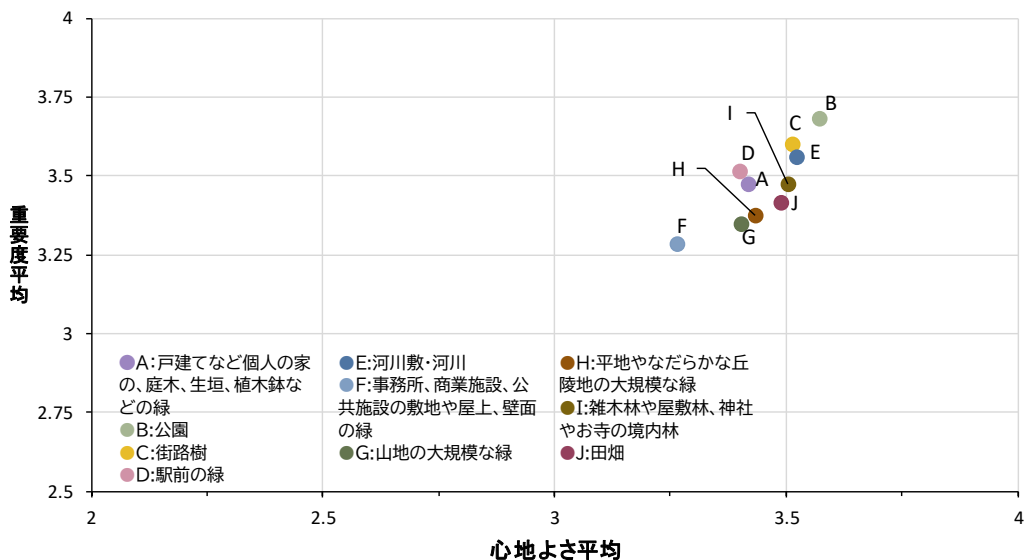


図 2-38 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（南西部地域）

【東部地域】

全県の傾向と概ね同じとなっているが、駅前の緑の重要度が県全体よりも低い。また、河川敷・河川と田畑については、「心地よさ」と「保全・創出の重要さ」の両面で、県全体を上回っている。

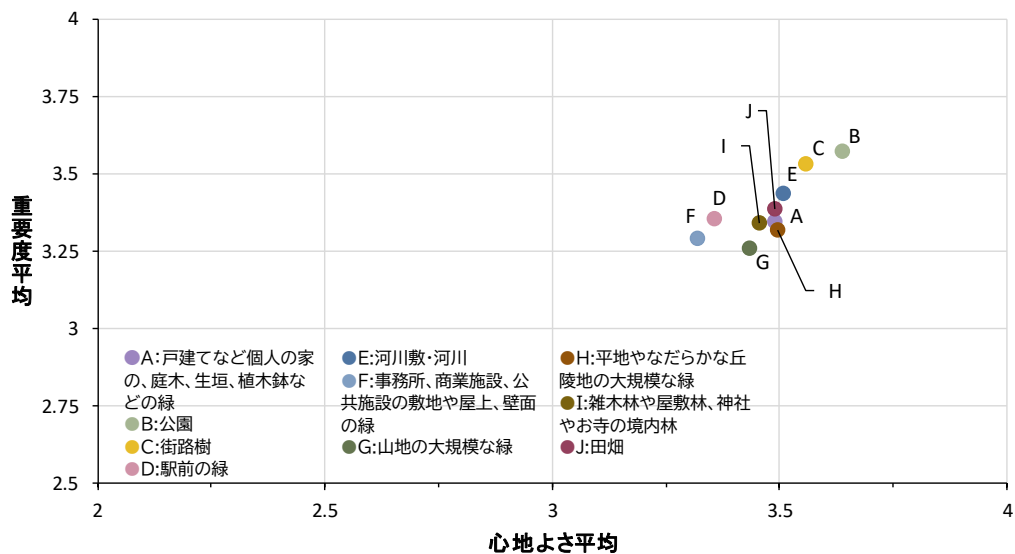


図 2-39 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（東部地域）

【さいたま地域】

心地よさの傾向は概ね県全体と同じであるが、個人の家の緑を除き、それぞれの緑の種類「保全・創出の重要度」が県全体を下回っている。

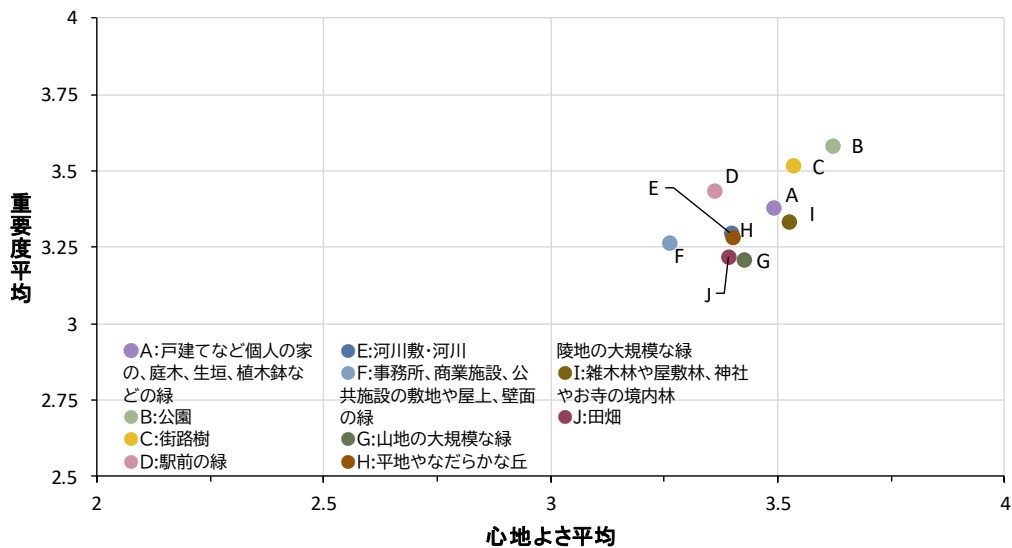


図 2-40 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（さいたま地域）

【県央地域】

県全体の傾向と比較して全体的に重要度が高く、特に「個人の家の緑」と「事務所等の緑」の重要度は、県平均を大幅に上回っている。一方、山地の緑については、重要度が県平均と同程度であり、かつ心地よさは下回っている。

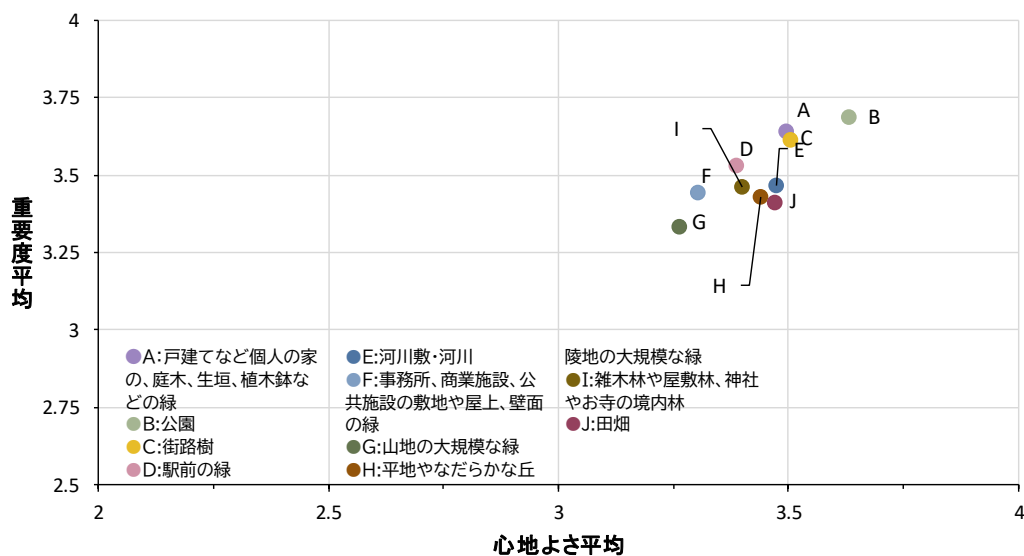


図 2-41 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（県央地域）

【川越比企地域】

県全体では心地よさが他に比べて低い傾向にある駅前の緑と事務所等の緑について、本地域では「心地よさ」が県全体を上回っている。

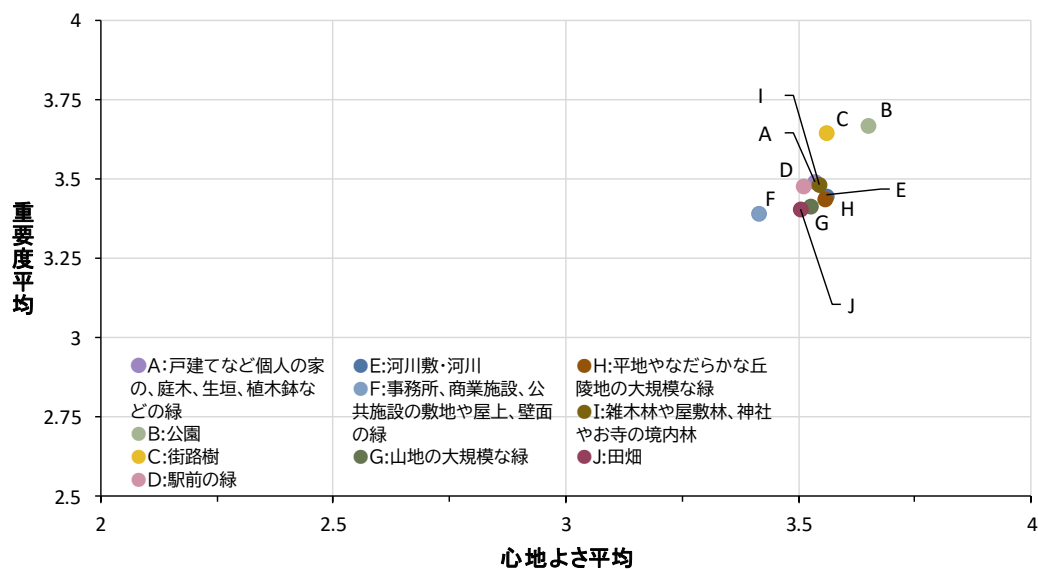


図 2-42 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（川越比企地域）

【西部地域】

公園の「心地よさ」が県全体の平均より高くなっている。また、特に丘陵地の緑、山地の緑、個人の家の緑、田畑については、「心地よさ」と「重要度」の両面が県全体の平均を上回っている。

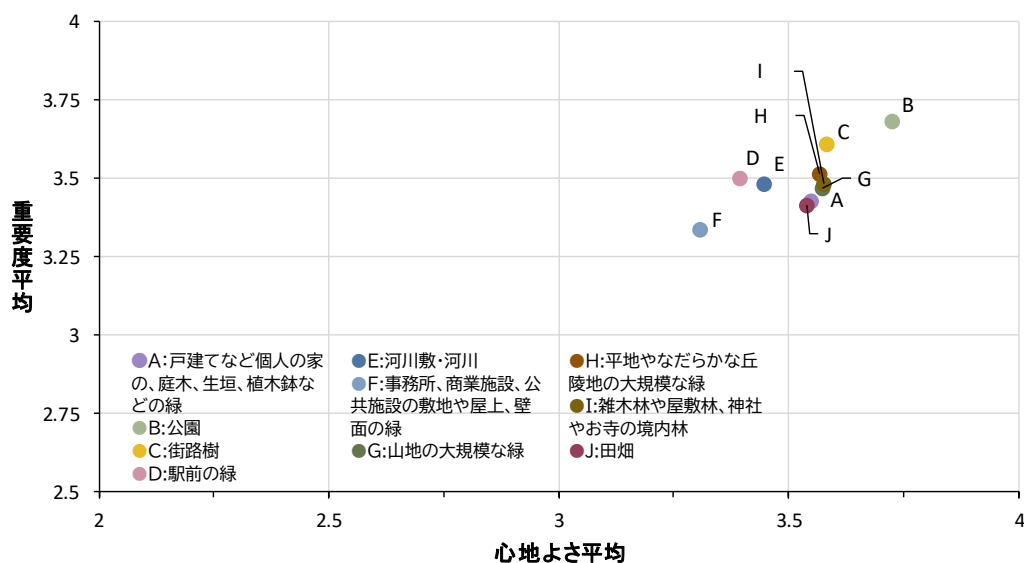


図 2-43 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（西部地域）

【利根地域】

特に公園と街路樹は「心地よさ」、「重要度」とともに県全体の平均を下回っている。駅前の緑と個人の家の緑は、「心地よさ」は県全体の平均と同程度であるが、「重要度」が県全体の平均よりも低い。

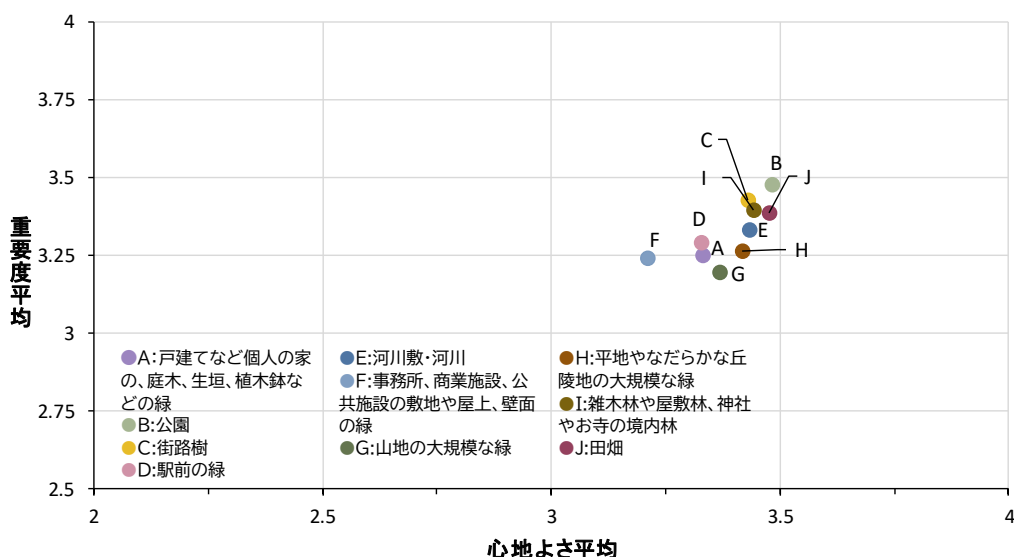


図 2-44 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（利根地域）

【北部地域】

特に事務所等の緑が「心地よさ」、「重要度」ともに県全体の平均を上回っている。田畑は県全体の平均よりも重要度が高く、また河川敷・河川、丘陵地の緑、山地の緑、個人の家の緑、雑木林・屋敷林・境内林は、県全体の平均よりも心地よさが高い。

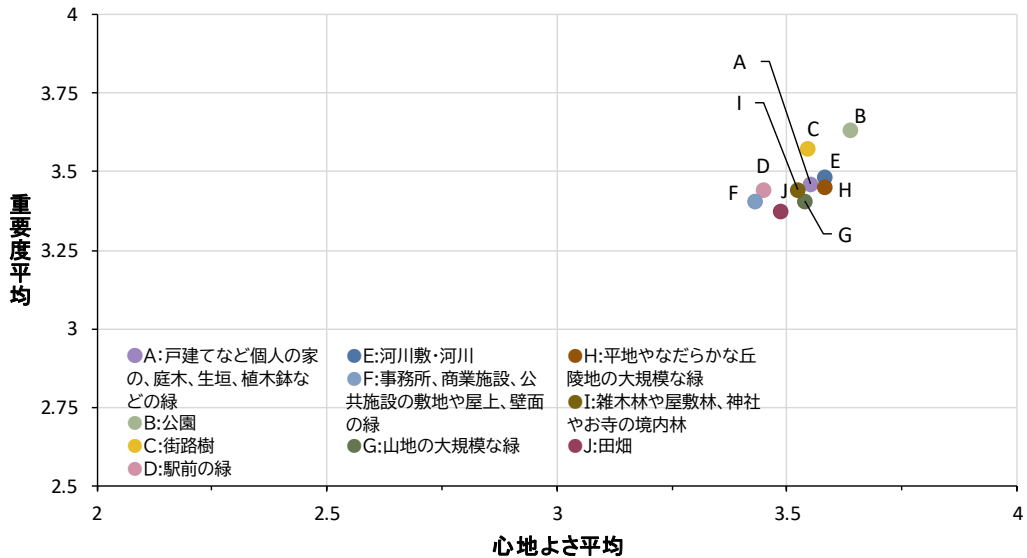


図 2-45 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（北部地域）

【秩父地域】

県全体よりも、全ての緑の種類心地よさと重要度が上回っている。特に、山地の緑については、大幅に県全体の平均を上回り、他の緑の種類と比較して「心地よさ」の値が高く、また「保全・創出の重要度」も高い（最も右上の象限に位置している）。

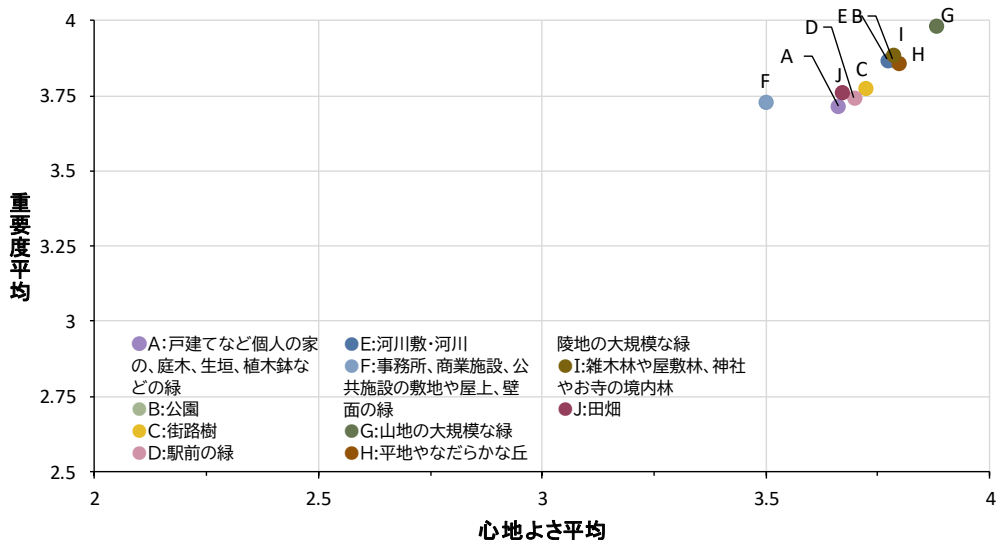


図 2-46 心地よいと感じる緑、保全・創出が重要と思う緑の散布図（秩父地域）

③心地よいと感じる緑のある具体的な場所

Q12	あなたが生活している中で、その場を通りかかったり滞在したりしたときに、心地よいと感じる緑のある、具体的な場所をひとつ教えてください。
-----	--

全回答者 4,039 人のうち、県内の地点について 1,372 人が回答した。回答地点を地図上にプロットした図を以下に示す。

さいたま地域の浦和区内の地点が多く挙げられている。また、浦和駅周辺（浦和区）、獨協大学前駅周辺（草加市）、越谷レイクタウン駅周辺（越谷市）等の鉄道駅周辺にて、多くの回答が挙げられていることがみてとれる。

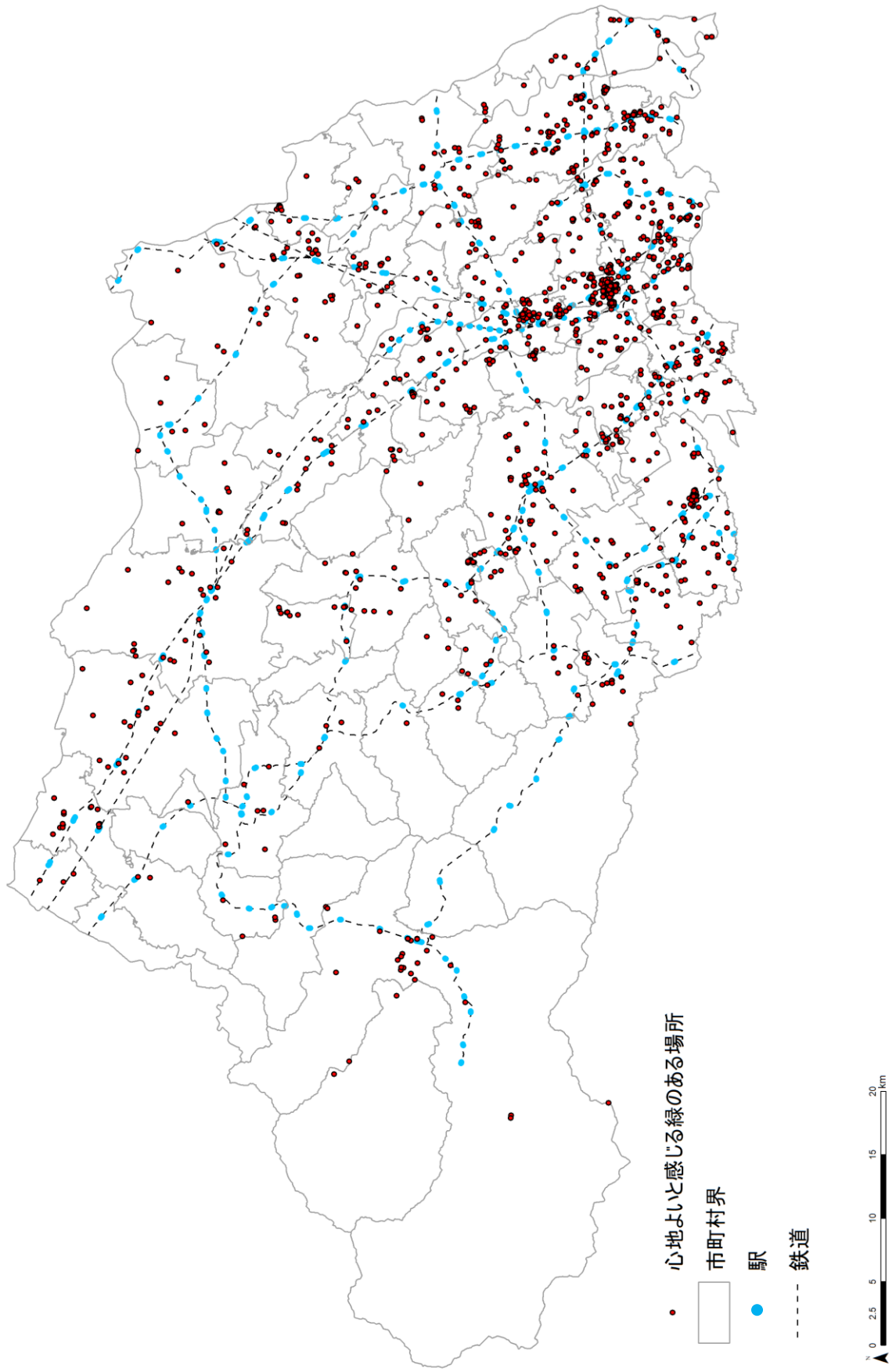


図 2-47 心地よいと感じる緑のある場所 プロット図

2) 埼玉県全体の緑について

Q13	私たちの周囲には、身近な緑から秩父地方の山地の緑まで、地域や地形などによってさまざまな緑があります。これらのうち、あなたが特に「埼玉らしい」と感じる緑はどれですか。次の中から1つ選んでください。
-----	---

埼玉らしいと感じる緑として、「山地の緑」が最も多く 26.4%、次いで「水辺につながりを持つ緑」(16.9%)、「田園地帯の緑」(11.3%)、「屋敷林、境内林」(7.0%)、「丘陵地の緑」(6.7%)であった。「特にない」、「わからない」の回答割合も高く、あわせて 29.0%であった。

2004(平成 16)年度に実施した同様の設問と比較すると、選択肢に「見沼たんぼなどの田園地帯の緑」を今回新たに追加したため、相対的に他の選択肢の回答割合が減少している中、「特にない」、「わからない」が大幅に増加しており、これらの回答者の属性として、特定の世代に偏りはない一方、回答の過半数以上が、県南ゾーンの居住者であった。

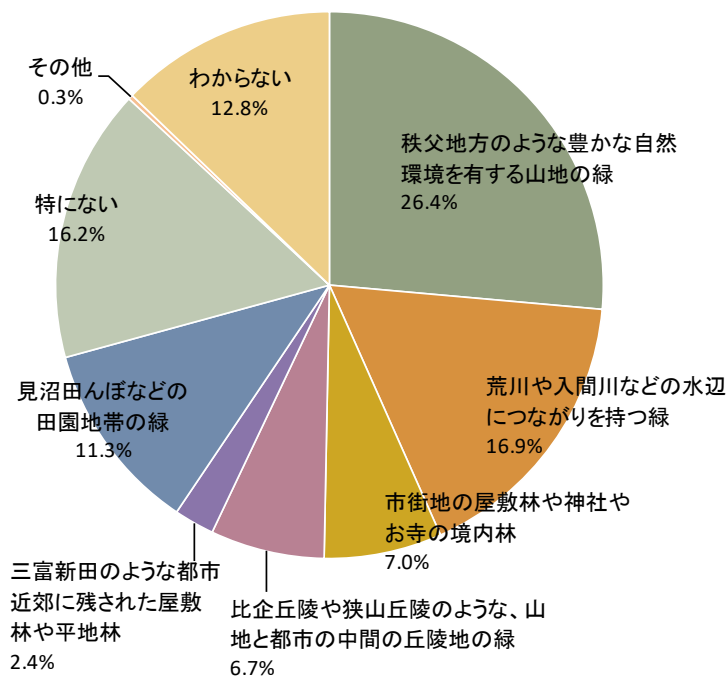


図 2-48 「埼玉らしい」と感じる緑 (%) (n=4,039)

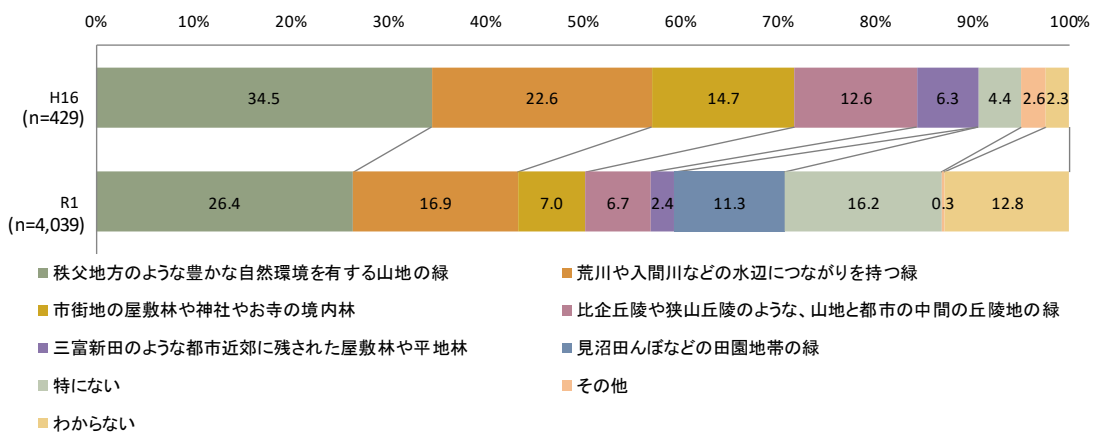


図 2-49 「埼玉らしい」と感じる緑 (2004(平成 16)年度調査結果との比較)

※「見沼たんぼなどの田園地帯の緑」は今年度新たに追加した設問項目のため、2004(平成 16)年度調査結果では当該項目が 0%となっている。

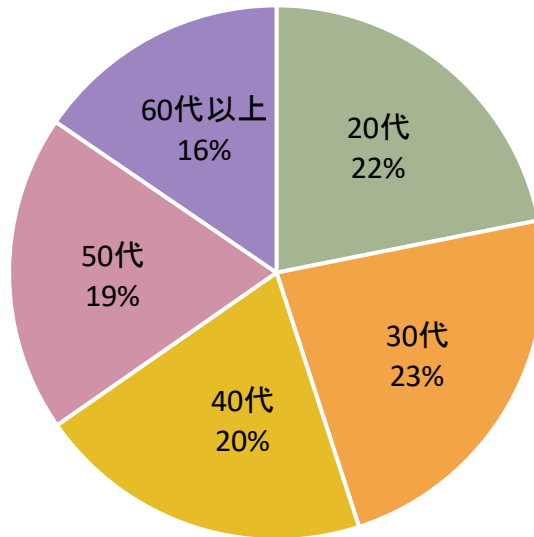


図 2-50 「特にない」、「分からない」と回答した人の年齢 (n=1,171)

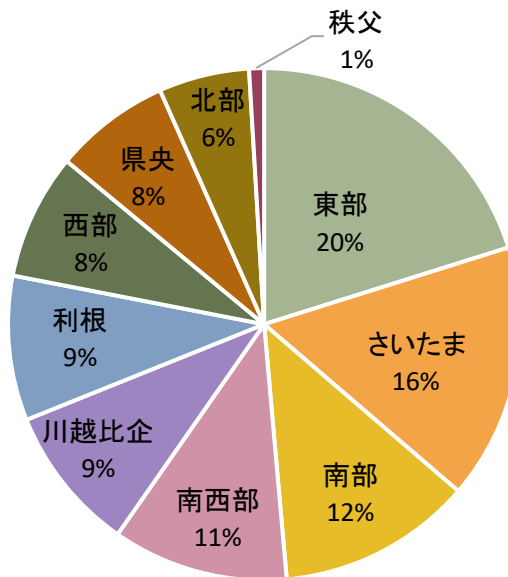


図 2-51 「特にない」、「分からない」と回答した人の居住地 (n=1,171)

Q14 さまざまな緑のうち、あなたが守りたいと思う緑はどのようなものですか。次の中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

守りたいと思う緑として、「山地の緑」が最も多く 31.3%であった。次いで、「特にない」と「わからない」がそれぞれ 13.8%、続いて「水辺につながりを持つ緑」が 12.0%であった。

2004(平成 16)年度に実施した同様の設問と比較すると、選択肢に「見沼たんぼなどの田園地帯の緑」を今回新たに追加したため、相対的に他の選択肢の回答割合が減少している中、「山地の緑」の減少割合が他の選択肢に比べて緩やかである。また「特にない」、「わからない」は大幅に増加しており、回答者の属性として、特定の世代に偏りはなく、回答の過半数以上が、県南ゾーンの居住者であった。

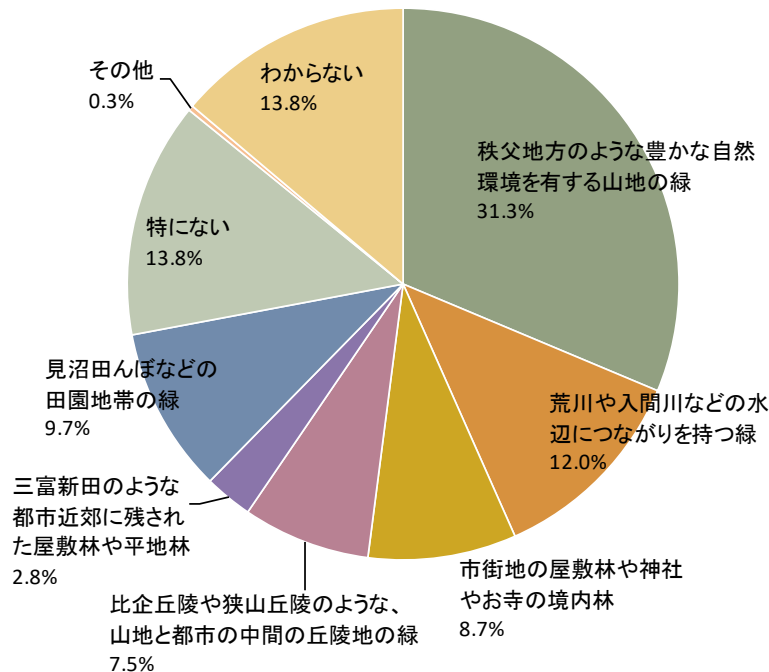


図 2-52 守りたいと思う緑 (%) (n=4,039)

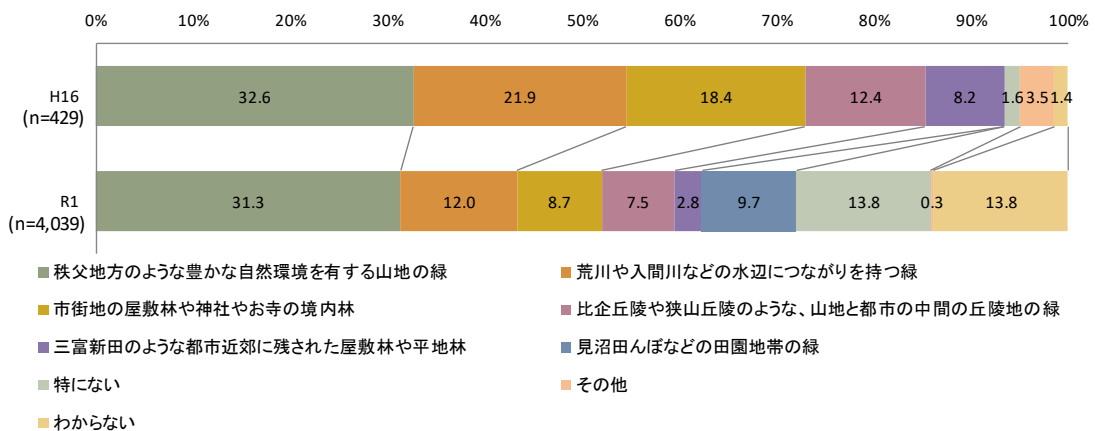


図 2-53 守りたいと思う緑 (2004(平成 16)年度調査結果との比較)

※「見沼たんぼなどの田園地帯の緑」は今年度新たに追加した設問項目のため、2004(平成 16)年度調査結果では当該項目が 0%となっている。

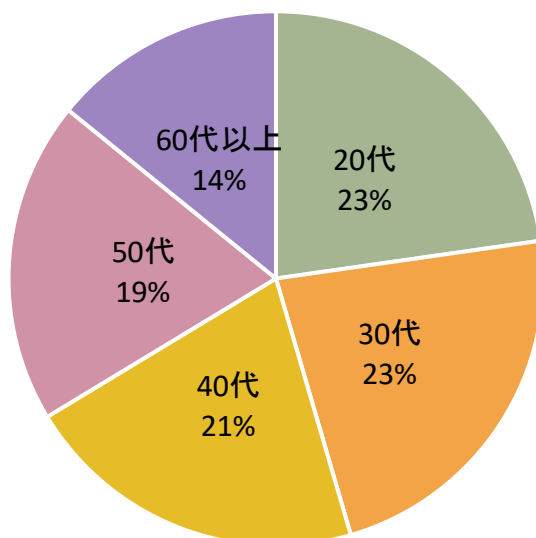


図 2-54 「特にない」、「分からない」と回答した人の年齢 (n=1,117)

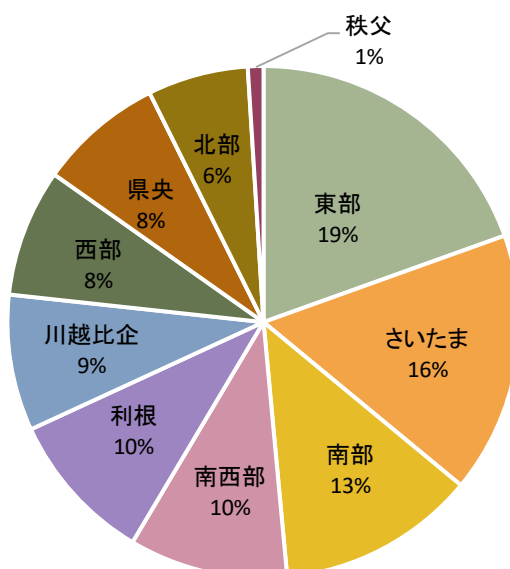


図 2-55 「特にない」、「分からない」と回答した人の居住地 (n=1,117)

Q15 あなたは、緑にどのような役割を期待していますか。次の中から最もあてはまるものを1つ選んでください。

緑に期待する役割として、「潤い、安らぎ、季節感」が最も多く 32.2%であった。次いで、「動植物の生息環境」(19.8%)、「空気清浄、ヒートアイランド現象の緩和」(16.1%)であった。

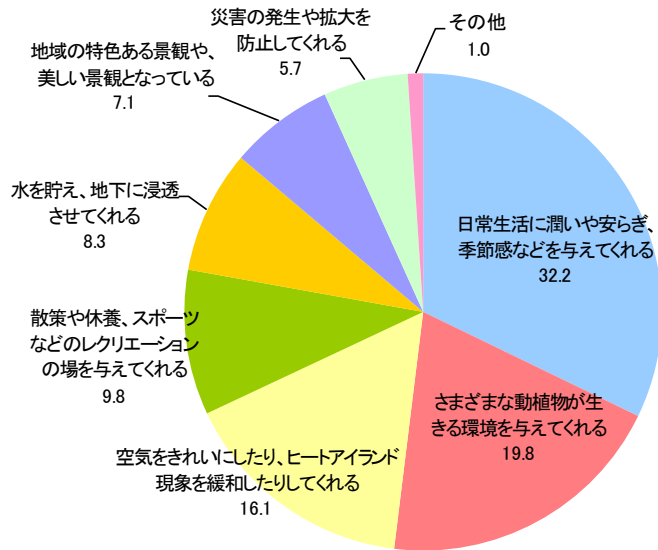


図 2-56 期待する緑の役割 (%) (n=4, 039)

Q16 埼玉県には、個人や企業が所有する緑地が多くあります。そのような緑地を守るためには、何が必要と思いますか。特に必要と考える取組について、次のうち2つまで回答ください。(2つまで)

個人や企業が所有する緑地を守るために必要と考える取組として、行政による開発制限が最も多く (30.2%)、次いで行政による土地所有者への支援等 (25.9%) であった。個人や企業の役割としては、ボランティア活動への参加が寄付を上回った。

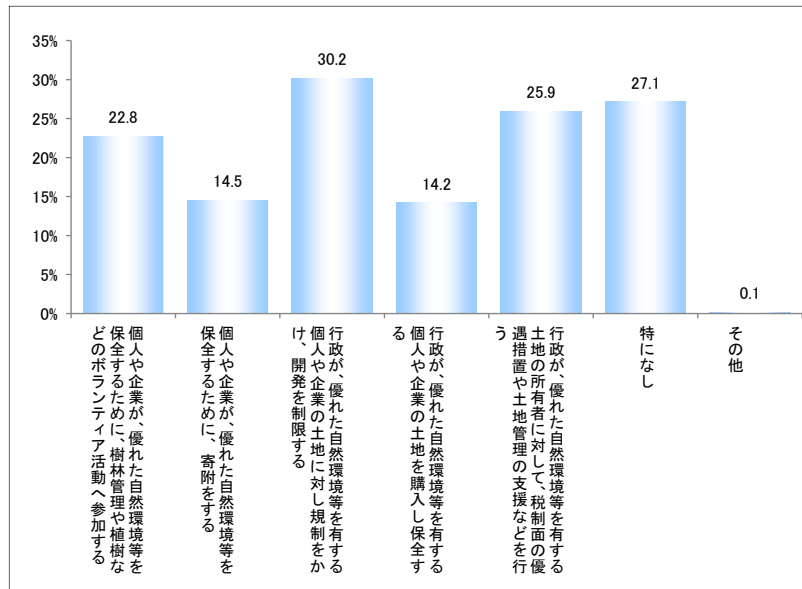


図 2-57 個人や企業が所有する緑地に必要な取組 (n=4, 039)

Q17 地域住民がアイデアを出して保全や管理、緑地づくり（整備）に参加していくことが望ましいと考える場所を2つまで選んでください。（2つまで）

地域住民がアイデアを出して緑地整備等に参加することが望ましい場所として、「まちなかの公園」が最も多く（36.8%）、次いで雑木林（24.1%）、河川敷（20.0%）であった。低未利用地や耕作放棄地はそれぞれ16.2%、18.4%であり、駅前広場は最も低く8.9%であった。

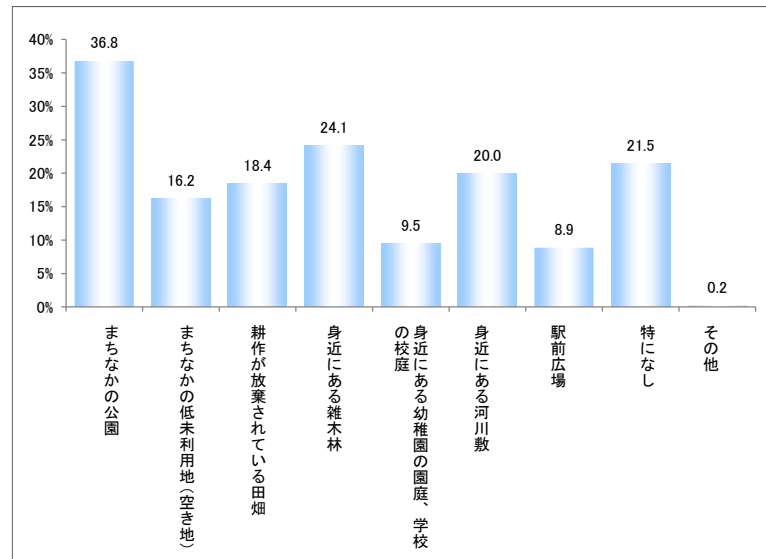


図 2-58 地域住民がアイデアを出して保全や管理、緑地づくり（整備）に参加していくことが望ましいと考える場所 (n=4, 039)

Q18 地域住民自ら、地域にどのような緑地が必要かを考え、整備しようとする場合、実現するためにはどのような支援が必要だと思いますか。2つまで選んでください。（2つまで）

住民が主体となった緑地整備に必要な支援として、費用の補助（50.5%）、地元自治体の協力（44.7%）が多くあがった。

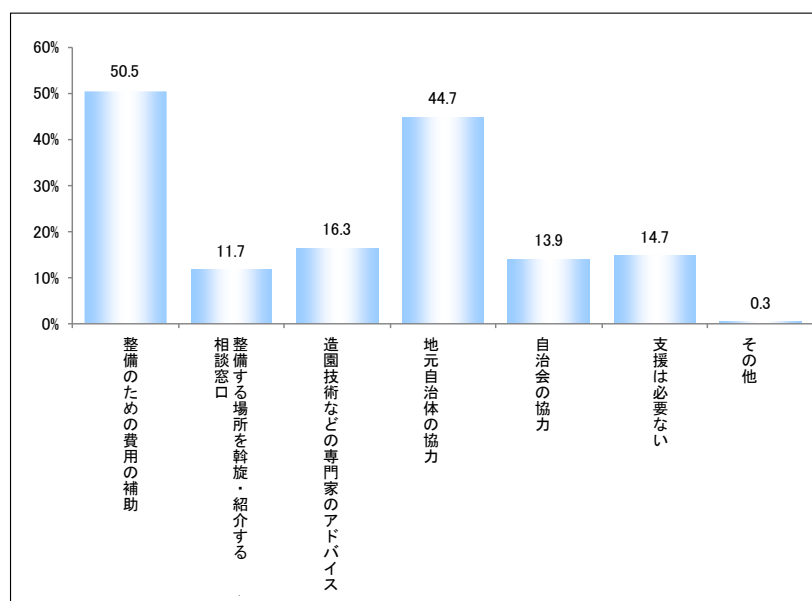


図 2-59 地域住民自ら緑地を整備する際に必要な支援 (n=4, 039)

(3) 集計結果の概要〔(2)の要約〕

1) 生活している地域の緑について

①家の周りの緑に対する満足度（緑に恵まれていると感じる度合い）

県全体として、家の周りが緑に恵まれている（「恵まれている」、「やや恵まれている」の合計）と感じる回答者が多い（図 2-8）が、地域差がある。秩父地域が緑に恵まれていると感じる回答者が最も高く、南部地域、東部地域、南西部地域は緑に恵まれていない（「恵まれていない」、「あまり恵まれていない」の合計）と感じる回答者が全体の2割を超えた（図 2-9）。

②家の周りの緑に対する満足度の理由

緑に恵まれていると感じる理由には、「様々な場所に緑があるから」が最も多くあがった。緑に恵まれていると感じる理由、恵まれていないと感じる理由の両者について、目に見える緑の多寡が上位にあがった。大きな緑の空間の存在は、恵まれていないと感じる理由には多くあがる一方、恵まれている理由としては、「様々な場所に緑があるから」や「目に見える緑が多いから」よりも多くはなかった（図 2-11、2-13）。

③家の周りの緑に対する満足度と、居住エリアへの愛着の関係性

家の周りの緑に対する満足度と愛着度（「お住まいのエリアに愛着を感じていますか」の質問に対する回答）の相関をみると、家の周りが緑に「恵まれている」と感じる回答者の65.4%は、住まいのエリアへの愛着も感じている。緑に「恵まれていない」と感じる回答者の半数以上（55.5%）が、住まいのエリアへの愛着について「まったく感じていない」と回答している（図 2-10）。

④家の周りの緑の種類ごとの緑の心地よさ、重要性

緑の種類別に、「心地よいと感じるか」、「保全したり創出することが重要と思うか」についての回答からは、いずれの緑の種類についても保全・創出を重要と認識している（平均値が「どちらともいえない」を上回った）が、緑の種類によって、心地よさに違いがみられた。選択肢のなかでも、心地よいと感じており、かつ保全・創出を重要と考えている緑として、公園、街路樹、個人の家の緑があがった（図 2-17）。

2) 埼玉県全体の緑について

①埼玉らしいと感じる緑、守りたいと思う緑

「埼玉らしいと感じる緑」、「守りたいと思う緑」の双方に、「山地の緑」が最も多くあがった。2004(平成 16)年度に同様の設問を調査した際の結果と比較すると、当時と同様の回答傾向がみられる一方、「特にない」、「分からない」の回答割合が2004(平成 16)年度調査に比べて大幅に増加した（図 2-49、2-53）。これらの回答者の属性として、特定の世代に偏りはなく、回答の過半数以上が、県南ゾーンの居住者であった（図 2-51、2-55）。

②緑が果たす役割への期待

緑が果たす役割への期待としては、「日常生活に潤い、安らぎ、季節感などを与えてくれる」が最も多くあがった（図 2-56）。

③緑地保全の方策

緑地保全の方策として、「行政による開発制限」、「行政による土地所有者への支援等」が多くあがった（図 2-57）。地域住民のアイデアによる緑地づくりについては、「まちなかの公園」が望ましい場所として最も多くあがった（図 2-58）。住民が主体となった緑地整備に必要な支援として、費用の補助、地元自治体の協力が多くあがった（図 2-59）。